ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION 全酪連会報

父の日に牛乳を贈ろう！
今年も全国各地でキャンペーンを実施！

第41回らくのうこどもギャラリー入賞作品紹介

嫁・婿が語る酪農の魅力／柳澤 聡さん

監査室だより

［第3回］これからの監査のあり方について

JA全国監査機構 監査企画部 担当部長
白石 幸人 氏　講演録

酪農トピックス／
『がんばろう東北の酪農』キャンペーン（仙台）ほか
購買部だより／DMSシステム平成25年集計結果
酪政連活動報告
日本酪農見て歩紀（宮崎県都城市 池田利弘牧場）

7

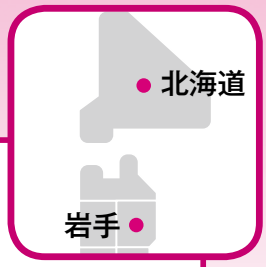
2014 July No.586

全国酪農業協同組合連合会

父の日に牛乳（ちち）を贈ろう！

今年も全国各地でキャンペーンを実施！

全国酪農青年女性会議による「父の日に牛乳（ちち）を贈ろう！キャンペーン」が、今年も全国各地で開催されました。今年は4月末～父の日である6月15日㈰を中心に、地域の特色に合わせた活動を全国で展開しました。
今月号では、各地で実施されたキャンペーンの一部をご紹介します。



北海道

●幼稚園訪問

北海道酪農青年女性会議は、6月2日㈪、3日㈫、9日㈪、16日㈪の4日間に、札幌市・千歳市・江別市の幼稚園を訪問しました。参加した委員は、園児たちに牛乳へ親しみを持ってもらおうと、等身大牛タペストリーや牛の着ぐるみや牛乳パックなどを使い、牛の大きさや一日の産乳量など、牛について分かりやすく話をしました。また、4園併せて200ml牛乳565個を配布しました。

●イベント開催

岩手中央酪農青年婦人会議は、6月8日㈰、盛岡駅西口岩手県歯科医師会館での「第9回8020健康フェスタ」において、リーフレットやグッズなどを配布し、酪農に対する理解を求めました。牛の着ぐるみの登場にちびっ子たちは大喜びし、県産牛乳の試飲には『とてもおいしい、さすが岩手の牛乳』と喜ぶ姿が見られました。

IATアナウンサーの高井瑛子さんにも牛乳を飲んでいただきました！

岩手

福　島

県産牛乳を飲んでPR ▼

●大谷技監へ牛乳贈呈

福島県酪農青年研究連盟は、6月11日㈬に福島県庁農林水産部長室において、農林水産部大谷秀聖技監へ県産牛乳を寄贈し、牛乳で乾杯しました。

同連盟 佐藤会長は「自ら作った牧草を食べさせ、生産される牛乳は特別においしい。安全安心な牛乳を消費者の皆さんへお届けできるよう頑張っていきたい」とPRしました。

●幼稚園訪問

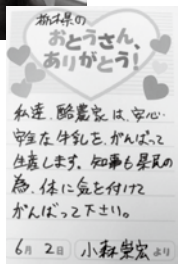
県南酪農研究会は、5月21日㈬、矢吹町立三神幼稚園において、キャンペーンを行いました。

3~5歳の幼児、先生が約50名参加し、「牛乳ができるまで」や、「牛の一生について」の紙芝居や○×クイズで楽しみました。牛乳はもちろんのこと、父の日グッズも贈呈し、子供たちは嬉しそうに受け取っていました。

栃　木

道の駅しもつけ ▶

◀ 栃木県知事へ贈呈



カードも添えて ▶

◀ JR宇都宮駅の市場催事スペース

●イベント開催、知事への牛乳贈呈

栃木県酪農青年女性会議は、6月1日㈰に県内の道の駅・スーパー等8ヶ所で一斉にキャンペーンを実施し、場所によっては牛乳試飲も行いました。また、6月2日㈪には栃木県庁を訪問し、福田富一県知事へ各酪農組合の牛乳を贈呈しました。

また6月15日㈰には、牛乳普及協会が行うイベントに参加し、牛乳のPRを行いました。

群　馬

●イベント開催

群馬県酪農青年女性会議連絡協議会は、5月24日㈯、25日㈰に前橋市富士見町の道の駅風ラインふじみでの「風ラインまつり」においてキャンペーンを行い、牛乳・乳製品のPRを行いました。

また、6月1日㈰に前橋市児童文化センターにおいて、子牛の触れ合い体験や搾乳疑似体験、牛乳パックから作る紙トンボ工作などを行い、酪農をPRしました。当日は群馬県のゆるキャラ“ぐんまちゃん”やNHKの取材が来るなど、大きなイベントになり、来場した約880名の親子が酪農を身近に感じてもらえる良い機会になりました。

茨　城

●ブース出展、県知事へ牛乳贈呈

茨城県酪農青年女性会議は、4月27日㈰、イオンタウン水戸南「いばキャラまつり」にてブースを出展し父乳キャンペーンをPRしました。

◀ ゆるキャラによるPK対決。エイエイオー!!

ブース出展 ▶

◀「県内産牛乳」をよろしくお願いします

また、5月30日㈮には茨城県庁にて橋本昌県知事へ牛乳贈呈を行うとともに、水戸駅にて父乳キャンペーンのPRを開催しました。

▲ 水戸駅構内のいばらきのミルクスタンド「ミルスタ」前にて

中部酪農青年女性会議

●東海農政局長への牛乳贈呈

6月6日㈮、中部酪農青年女性会議は東海農政局を訪問し、消費拡大のPRを行うとともに森多可志東海農政局長への牛乳贈呈を行いました。

塩川白良東海農政局次長の乾杯のご発声後、生乳の需給動向や最近の酪農情勢、東海地域の生乳生産等について意見交換がなされ、牛乳消費拡大へのアピールができた有意義な1日となりました。

埼　玉

●ブース出展

埼玉酪農業協同組合は、5月11日(日) に第53回寄居北条まつり『よりい楽市』内の「北条食の陣」にてブースを出展し、父乳キャンペーンをPRしました。

岐　阜

●古田県知事への牛乳贈呈

6月13日㈮、岐阜県酪農青年女性会議は岐阜県の古田肇県知事への牛乳贈呈を行いました。

当日は多数の役員・委員等の参加を得た中、地元新聞社やテレビ局の取材もあり夕方のニュース番組でも放映され、牛乳消費拡大のアピールが出来ました。

愛　知

●牛乳・乳製品の贈呈

6月14日㈯、愛知県酪農農業協同組合青年女性部は、お父さんへの「メッセージコンテスト」を実施し、優秀作品に選ばれたお宅を訪問し牛乳・乳製品の贈呈を行いました。

父の日に牛乳を贈ろう！

▲ 伊原木隆太県知事に牛乳をサービス

JR岡山駅前でPR ▶

岡　山

●県庁・農政局へ牛乳贈呈、配布活動

おかやま酪農業協同組合女性部・青年部等は、6月5日㈭に岡山県庁・中四国農政局を訪問し、県産牛乳・乳製品の消費拡大をPRしました。また、JR岡山駅前で飼料の高騰など厳しい酪農家の現状を説明したチラシと、ひと味違った牛乳が楽しめるバナナ風味の顆粒入りストローを駅利用者に配布しました。

●鈴木県知事への牛乳贈呈

6月9日㈪、三重県酪農女性会議は三重県の鈴木英敬県知事への牛乳贈呈を行いました。

同会議 江尻委員長から、牛乳によるバランスのとれたダイエット効果や夏場の熱中症対策にも効果があることを説明した後、参加者全員で乾杯を行いました。地元テレビ局も取材に来ており、牛乳消費拡大等への理解醸成活動についても大いにアピールすることが出来ました。

三　重

愛　媛

●県知事へ牛乳贈呈、学乳デザイン紹介

愛媛県酪農経営者協議会等が、父親代表として中村時広県知事に牛乳・乳製品を贈呈してキャンペーンをPRし、併せて四国乳業の協力を得て牛乳月間の1か月間、地元動物園の人気者カワウソをデザインした学校給食用牛乳を紹介しました。

▲ 中村県知事へ牛乳贈呈

◀ 学乳キャラクター入りパッケージ

●試飲試食会の開催、牛乳オリジナルパッケージ展開

大山乳業農業協同組合酪農女性部・青年部が中心となり、知事訪問と県内量販店にて試飲試食会を行いました。安達女性部長は、世のお父さんは生活が不規則、栄養バランスも乱れがちと言及し、牛乳には強い骨を作りイライラを抑える働きがあるとして牛乳の飲用を奨めました。また、同農協では、6月に白バラ牛乳パッケージ1面にキャンペーンPRを掲載しました。

▲ 平井伸治県知事を囲んで

◀ 白バラ牛乳父の日広告

鳥　取

山口

●イベント開催

山口県酪農青年女性会議は、6月1日㈰に会員酪農家及び県乳業協会等と共同で萩市内にて父の日キャンペーンと消費拡大運動を展開し、活動パンフレットや牛乳の試飲等提供しました。会場の「アトラス萩」は、市内中心部にあり、買い物客が多く良いPRになりました。

▲ 萩市三原正光副市長を囲む

広島

●県知事へ牛乳贈呈

広酪メンバーズクラブは6月9日㈪に県知事を訪問し、牛乳を贈呈するなど消費拡大のPRに努めました。

▲ 湯崎英彦県知事と共に

長崎

●イベント参加

6月15日㈰、雲仙市小浜町で開催された『ジャカランダフェスタ』にて、長崎県酪農青年女性会議及び組合職員が200ml牛乳やヨーグルトと共にツールを配布し、消費拡大を呼びかけました。

▲ ジャカランダフェスタにて

佐賀

▲ 佐賀市内農産物直売所「街かど畑」にて

●嬉野市長へ牛乳贈呈、イベント開催

6月10日㈫、佐賀県酪農婦人部連絡協議会は農産物直売所である「街かど畑」にて牛乳の試飲とツールを配布し、消費拡大活動を実施しました。また、6月13日㈮には嬉野市 谷口太一郎市長へ牛乳を贈呈し、牛乳のPRを行いました。

大分

●イベント開催

6月15日㈰、大分県酪農青年女性会議は大分市内のショッピングモール「パークプレイス大分」において、搾乳体験と父の日ツールの配布を行いました。また、会場内では同青年女性会議の小野浩輔委員長がラジオ番組に出演し、牛乳消費拡大のPRを行いました。

◀ ラジオ出演

盛り上がる会場の様子 ▶

熊　本

●九州農政局長・県知事へ牛乳贈呈、イベント開催

熊本県酪農青壮年部協議会、熊本県酪農女性部協議会は、6月11日㈬に九州農政局井上明局長、蒲島郁夫知事、くまモンに牛乳を贈呈し、消費拡大をPRしました。さらに、6月14日㈯にゆめタウン光の森で牛乳の試飲やツール配布を行い、消費者に牛乳をPRしました。

◀ 熊本県蒲島知事とくまモンに牛乳贈呈

ゆめタウン光の森にて ▶

鹿児島

伊藤県知事に牛乳贈呈 ▶

◀ 鹿児島県庁畜産課訪問

●県知事等へ牛乳贈呈

鹿児島県酪農青壮年会議、鹿児島県酪農女性部が6月10日㈫、伊藤祐一郎知事へ表敬訪問し、小薗委員長が消費拡大等の報告、迫部長が今年度の牛乳消費拡大活動や女性部活動など紹介しました。 その後、県農政部長、農政課長、畜産課などを表敬訪問し、牛乳・乳製品等を飲んで食べて下さいとアピールしました。

宮　崎

●県知事等へ牛乳贈呈

宮崎県酪農青年女性連絡協議会では、全県民のお父さんでもある河野俊嗣知事に牛乳を飲んでこれからも元気に頑張っていただこうと、牛乳・乳製品を贈呈し、キャンペーンをPRしました。また、県内各地域17ヶ所にて市町村長・JA組合長等へも牛乳・乳製品を贈呈しました。

◀ 河野県知事へ牛乳贈呈

JA尾鈴 ▶

沖　縄

●県知事へ牛乳贈呈、イベント開催

6月5日㈭、沖縄県酪農青年女性部連絡協議会は沖縄県庁を訪問し、仲井眞弘多知事に牛乳を贈呈しました。また、6月7日㈯に島尻郡の「サンエー八重洲シティ」にて搾乳体験や牛乳の試飲等を行い、牛乳・乳製品をアピールしました。

◀ 沖縄県庁訪問

南城市での搾乳体験 ▶

ながさき県酪協にて後継者支援のための研修会を開催

「後継者支援チーム」活動報告

全酪連では、長期ビジョンに掲げた我が国酪農生産基盤の維持・拡大を実現するための具体策の一つとして、昨年4月より「後継者支援チーム」を設置し、酪農後継者への確実な経営継承のための支援を行っています。

この「後継者支援チーム」の活動の一環として、6月6日㈮、長崎県において、本会会員であるながさき県酪農業協同組合（山下俊忠代表理事組合長）と協力し、研修会を開催いたしました。当日は県下全域より約40名の方々が参加されました。

山下組合長の冒頭挨拶

丹戸講師

猪内講師

この研修会は、主に若手の酪農経営者を対象とし、経営感覚の向上に資することを主眼に置いた内容で、本会購買部酪農生産指導室の丹戸靖課長代理と、同じく本会購買部酪農技術研究所の猪内勝利研究員の2名が講師を務めました。

研修の前半は丹戸課長代理より、「〝気づき〟と〝共有〟から始まる経営発展の仕組み造り」と題しての講演が行われました。〝儲かっている〟とはどういう状況なのかという問題提起から始まり、自らの経営がどのような状態にあるのかに気づき、牧場で生じている問題を共有するための具体的な手段を提示し、いかにして儲かる牧場経営を実現していくかについて、各地の経営実例をもとに浮き彫りにしていきました。

昼食を挟んで後半では猪内研究員より、「酪農体験談～経営、技術、コミュニケーション～」と題しての講演が行われました。自身の酪農ヘルパーや酪農実習生としての体験、更には代表取締役牧場長として大規模酪農の経営に携わった経験をもとに、経営改善のための実践的なノウハウ、マネジメントと、経営者としての心構えについて解説がなされました。

両氏の研修に共通するのは、全国津々浦々、様々な立地条件、規模の酪農経営がある中、それぞれに経営のあり方が存在し、それぞれに経営を軌道に乗せる方法があるということです。

研修会の様子

研修時はもとより、その後に行われた懇親会においても、両講師に対して活発な質問や意見が寄せられ、若い方々の経営というものに対する高い関心、熱意が感じられました。

飼料価格の高騰や円安による生産コストの上昇、TPP問題など、不安材料を多く抱えた現在の酪農情勢において、若い酪農経営者が少しでも自らの牧場経営に自信を持ち、経営を安定化させていくためのサポートとして、全酪連では今後も、全国各地で同様の研修会の開催を予定しております。

第41回 らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介

今回は全国から476点と、昨年よりも約100点多く応募がありました。関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。
今年の審査は、昨年に引き続き宮島径先生（フォトグラファー）と浅野智先生（画家）にお願いしました。

特選 牧場の牛

馬場川小学校（北海道）６年
横山　恵也

作品としての完成度が高く、牛さんの存在感がリアルに伝わってきます。絵筆を巧く使って鼻筋、耳の内側、胴体、前足と、毛並みを描き分けています。瞳や舌、鼻先、角などの微妙な色の変化を鋭い観察力で捉えて塗り方を工夫して丁寧に表現しています。特選に相応しい素晴らしい作品だと思います。

全体の作品について

本年も「らくのうこどもギャラリー」に多数ご応募いただきありがとうございました。総応募点数476点と昨年よりも100点近く多い応募となりました。その中から12点の入賞作品を選出させていただきました。

今年の応募作品の中には、牛さんの顔を大きく描いた絵が多く見受けられました。対象を身近で観察し、その表情や毛並み、動きや特徴を描写する制作スタイルです。一方で、牛舎の中の作業の様子や、牛さんや自分たちを取り巻く環境に目を向けた作品は、例年に比べ少なかったように感じました。

今回は甲乙つけがたい作品が揃い、審査に時間がかかりました。入賞した作品には、どれも独創性があり、子ども達の視線や世界観が伝わってくる作品でした。その中で特選となった横山恵也君の作品は、完成度の高さが群を抜いており、独自の色の組み合わせに工夫がみられました。筆跡を巧みに使った表現方法の丁寧さも評価しました。入選の小串珠々さんの作品は、緊張感ある線が特徴的です。しっかりした観察力で、対象物の細かな変化を逃すまいとする視線が、牛さんの一瞬を捉えています。入選の森垣華さんの作品は、色使いを細かく丁寧に吟味して描き、独創性のある絵画作品としています。こうして、今回も素晴らしい作品が集いました。集中し、観察して描く事へのこだわりや、イメージする事の楽しさを追求することが、子どもの自由な発想を邪魔しない素直な表現となって、見る者を魅了している事を審査を通して実感しました。

最後に「らくのうこどもギャラリー」41回目をお祝いするとともに、作品制作に協力していただいた酪農家の皆様、ご指導いただいた先生方、そして関係者各位に深く御礼申し上げます。

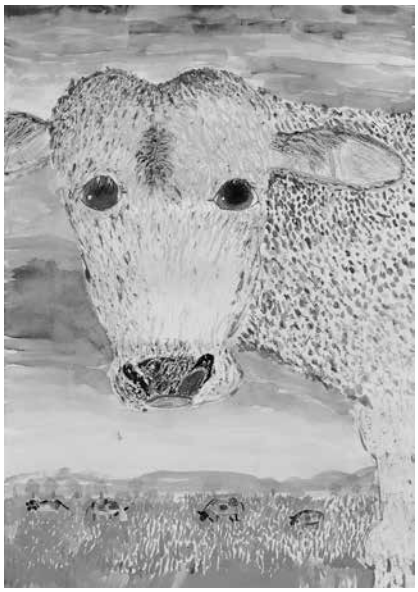
宮島　径／フォトグラファー
（みやじま・けい）

1967年　長野県生まれ。
1991年　東京藝術大学美術学部芸術学科 卒業。
1993年　デーリィマン写真部入社
1997年　フリーランス・カメラマンとなる。

個展：2002年　「surface」（PLACE M、東京）
2006年　「世界のしくみ」featuring麻里布栄（PLACE M、東京）
2010年　「日照時間／ The Daylight Hours」（ギャラリー蒼穹舎）

浅野　智／画家
（あさの・さとし）

1964年　神奈川県生まれ
1991年　東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業
1993年　東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻（油画）修士課程　修了
1997年　第５回 風の芸術展 ビエンナーレ まくらざき　賞候補
2000年　第11回　関口芸術基金賞　優秀賞
2001年　第12回　関口芸術基金賞　大　賞
その他　個展、グループ展多数
NPO法人withART 代表理事



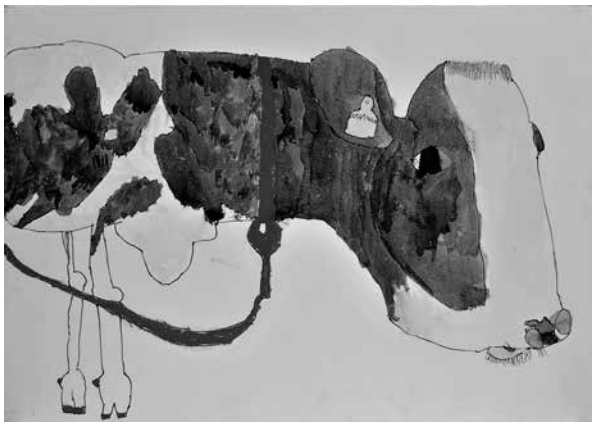
入選

子牛といっしょ

馬場川小学校(北海道)3年

森垣　華

青空の下、舌を出しながらこちらを向いた牛さんを点描タッチで描いた作品。毛並みには様々な色を使い絵画作品としての深みを感じます。瞳にはグラデーション技法やハイライト技法を駆使しています。その効果で表情が生き生きとして魅力溢れる作品になりました。



入選

見つめる牛

豊富小学校(中部)3年

小串　珠々

首を傾けてこちらを見つめる牛さんの姿が印象的な絵です。観察力の鋭さが伝わる、繊細な線、黒と白、余白によって構成された画面には心地よい緊張感がみなぎっています。首まわりのしわなど黒色をうまく使い分けて描けましたね。

入選

美里小学校(九州)2年

山崎　優依

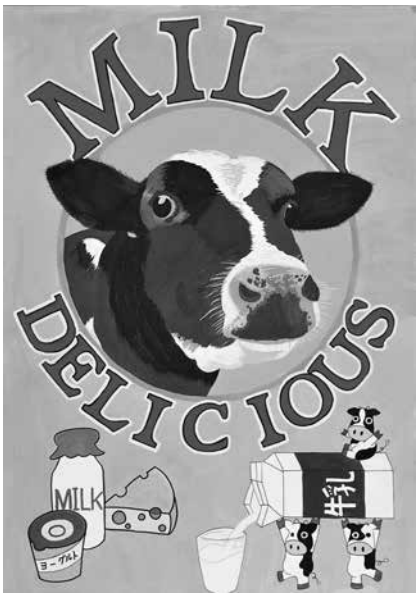
水彩絵具とクレヨンを使って描いています。牛さんの模様を白黒でしっかり力強く描けました。オレンジ色の帽子と背景の青が鮮やかに目に飛び込んでくる作品。女の子の笑顔がとても魅力的です。

入選

岡山大学教育学部附属中学校(西日本)2年

仲原　柚奈

3頭の牛さんの個性をうまく描き分けることができましたね。右側の牛さんが少し傾いていることで絵全体に動きが生まれています。牛舎内の屋根裏の様子など丁寧に根気よく描けていると思います。



秀作

福田中学校(西日本)3年

河内　香緒里

牛さんと乳製品を題材にデザインした中学3年生の作品。写実的でリアルな牛さんの顔と、コミカルでマンガチックな牛さんのキャラクターをセンス良く配置して画面構成しています。色使いのバランス感覚や文字体の選択も良いですね。

秀作

ねむそうな牛

豊富小学校(中部)3年

加藤　大地

題名の通り、ねむたそうな牛さんを優しい色使いで表現した作品。絵具に混ぜる水の分量を調整して自分のイメージする色に作り上げています。水彩絵具を塗った後に、もう一度ペンで丁寧に形を強調して、しっかりした画面に仕上げています。

ファミリー賞

長尾小学校(西日本)３年
原田　千咲月

いまにもこちらに飛び出してきそうな迫力のある牛さんのお顔が印象的です。青くふちどられた目やクレヨンの荒いタッチなど子供らしい元気のある絵に仕上がっています。

秀作

草を食べる牛
大泉東小学校(関甲信)４年
田中　勝大

草を食べる牛さんの顔の表情が的確に表現されています。低い目線から描かれた牛さんの姿がとても新鮮です。次回は背景ににぎやかにしてみましょう。

あすなろ賞

お花畑の牛
玉祖幼稚園(西日本)５歳
松永　和奏

お花畑に集まる蝶々さんと牛さんを鮮やかな色使いでメルヘンチックに描いた作品。女の子らしい自由な発想が満載で画面もリズミカルで躍動感があります。線がのびのびしていて楽しげな雰囲気が伝わってくる可愛らしい作品です。

ファミリー賞

美里小学校(九州)１年
小森　亜実

７頭の牛さんと14人の人達がところ狭しと描かれています。何度も描き消された鉛筆線に苦心の跡が見られます。バランスのとれた構図で明るい絵に仕上がっていると思います。

あすなろ賞

牛がミルクを出している
北陽幼稚園(北海道)５歳
植村　日萌子

簡潔な線で愛嬌のあるかわいらしい牛さんが描けましたね。また牛さんが太陽と一体となっているところがこの絵の最大の魅力です。これからどんな絵を描いてくれるのかが楽しみな1枚です。

嫁婿が語る酪農の魅力⑳

最強の婿を目指して

7月の婿　柳澤牧場　柳澤 聡さん

柳澤聡さんと妻 伸枝さん ▶

「嫁・婿が語る酪農の魅力」第20弾として、
柳澤牧場の柳澤 聡さんにお話を伺いました。

――柳澤牧場の概要と聡さんの役割について教えてください。

私の牧場は長野県松本市にあります。所属組合は、南信酪農業協同組合です。松本市は、人口24万人で長野県のほぼ中央に位置し、山脈・山地に囲まれた盆地にあり、雨量の少ない内陸性気候になっています。海外からの観光客が多く訪れる国宝松本城が市街地にあります。また、標高2，000mの台上には美ヶ原牧場があり、夏には300頭ほどの牛が上牧され、牧歌的風景は観光名所になっています。

家族構成は私（聡さん37歳）、妻（伸枝さん）、両親（宏さん、百合子さん）、姉（玲子さん）、長女（佳歩ちゃん）、長男（玄希くん）の7人家族です。

柳澤牧場は、戦後に祖父が牛を数頭飼い始めた事が始まりです。それを父が昭和49年に30頭の繋ぎ牛舎を建てて規模拡大しました。現在では搾乳牛28頭、育成牛14頭、和牛育成2頭を飼養しています。作業分担は、哺育、育成、経産牛の飼養管理全般を私が担当しています。搾乳作業は私と妻の2名で担当しています。妻は哺育のサポート、ベッドメイクなどの環境整備が中心です。圃場作業については私と義父が担当しています。

――奥様との出会いから結婚までの経緯について教えてください。

私は大学卒業後、自衛隊に入隊しました。しかし、膝の怪我、手術等もあり1年半ほどで退職しました。再就職先を探しているときに、家庭教師のアルバイトで酪農家の息子さんを教えていました。その酪農家さんの紹介により、松本市の波多腰牧場で働き始めました。仕事を始めてすぐに「自分で牛を飼ってみたい」と思いました。働き始めてから2年ほど経ったころ、組合の先輩から妻を紹介してもらいました。その頃、義父は病気で入院することになってしまい、妻は東京でのOLを辞めて実家に戻り、酪農を継ぐと言っていました。酪農をして生活していきたいというお互いの考えが一致し、出会ってから8ヶ月後ぐらいに入籍しました。

◀ 搾乳牛舎

牛舎 ▶

―結婚してから現在まで

結婚してから6年半が過ぎました。子供が長女5歳、長男3歳になり家庭内は賑やかです。仕事も最初の頃はお互い技術が未熟でいろいろ失敗もありましたが、今では朝・夕の作業はテンポよくスムーズにできるようになり、経営的にも安定期に入ってきたと思います。

―酪農をしてきて苦労したこと、良かった事を教えてください。

働いていた波多腰牧場はフリーバーン・ミルキングパーラーでしたので、その方法での飼い方が普通だと思っていました。最初、繋ぎ牛舎での搾乳は怖かったし、牛は繋がれていて哀れだと思いました。作業に慣れるのに2年ぐらい給餌や圃場の管理まで含めると5年ぐらいでやっと自分の形を作れてきました。当初は牛が餌槽に出てしまったり、立てなくなったりで、気が滅入ってしまうトラブルもありました。最近ではそのようなことは少なくなり、多少は進歩したのかなと思います。繋ぎ牛舎にもメリットがある事も分かってきました。

和牛受精卵移植子牛

また、酪農協の青年部の活動によって青年部員との繋がりができ、技術など気軽に相談できているのが良いと思います。自分の経営にとてもプラスになっています。

―酪農の魅力について

夫婦やその人のペースで仕事が出来る事が一番良い事だと思います。

また、地元の農家との繋がりや、地域活動を通して仲間を作る事が出来た事も大きな魅力だと感じています。酪農業を始めたばかりの頃には地域との交流が新鮮に感じました。今では、圃場でトラクターに乗っていると、消防団の仲間や地元農家とあいさつを交わすことが当たり前になっています。地域に多くの仲間がいるから安心して酪農業が出来ていると思います。

―今後の目標

やりたいことの1つは研修生の受け入れです。周辺地域では離農した牛舎も出てきています。私の就農の際にはたくさんの人が協力してくださったので、酪農への就農をサポートすることが一番の恩返しになると思います。

経営面では、今までF1を付けていたものを和牛受精卵移植に変えています。副産物を安定して高値で売れる技術を身に付けたいです。

牛舎でトラブルがあったときの対処を父に頼ってしまうことが多いので、トラブルが起こらない技術を身に付けていきたいです。

また、今年から美ヶ原牧場の役員になりました。牧場まで距離で40㎞、高低差1，４００ｍがあります。気分転換を兼ねて、環境が良くなるように作業していきたいと思います。

地元の農協青年部の先輩から「お前は最強の婿だ」と言われます。これからも最強の婿に恥じない活動をしていきたいと思います。

―ご主人から奥さんへ一言

仕事を一緒にしてくれてありがとうございます。これからも宜しくお願いします。トラクターの作業時の昼食は食べやすいおにぎりやパンにしてください。

―奥さんからご主人へ一言

いつもたくさん働いてくださって感謝しています。夢中になり過ぎて時々食事もとらずに仕事をしている事があるので、あまり無理をしないようにしてもらえればなと思います。ありがとうございます。これからも宜しくお願い致します。

これからの監査のあり方について

全3回連載 第3回

JA全国監査機構 監査企画部 担当部長 白石 幸人 氏 講演録

去る平成26年2月6日開催の平成25年度全酪連定例研修会「監事・役職員研修会」講演録の最終回です。

V JA全国監査機構が目指すプロセスチェック型の業務監査

業務監査とは（全国監査機構における定義）

(1) 定義（監査実施マニュアル）

JA全国監査機構では、業務監査を「JAにおける業務の効率性と有効性の確保と、法令等遵守の徹底状況等を検証し、経営管理態勢の一層の強化を促すことを目的とする監査」と定義しています。

(2) 考え方

理事の法的責任の4類型のところで述べたように、経営者には、組織の経営管理体制として内部統制システム（内部管理態勢）を構築する責任があります。その内部統制システムの構築・運用状況等を外部の目から検証することが、JA全国監査機構がやらなければならない業務監査の重要なポイントです。

その際には、単に規程等への準拠性や業務上の不備発生等の発見にとどまらず、監査上確認された個々の事実を踏まえ、内部統制のあり方から見た経営管理体制そのものに課題や問題点がないのかどうかを検証していく必要があります。このことは、農林水産省検査の方針転換と表裏一体です。

(3) 現状と課題

監査対象の組合では、例えば理事会であれば「経営方針を立て経営目標・計画を定める」、それを受けて所管部は「必要な体制整備や規程等の整備、実施状況のモニタリングを行う」、また、「所管部固有の業務も遂行する」、さらに営業店では「上位方針に基づいた業務活動を行う」、というふうに組織内のレベルに応じてそれぞれ機能を担っています。

そのような監査対象組合の幅広い事業運営のレベルに対応して、JA全国監査機構の業務監査を、指摘の種類と誰に対して指摘するかという観点から、指摘のレベルを「レベルⅠ」から「レベルⅣ」に分けて分析しています。（指摘の重要度による区分ではないことに留意してください。）

- **レベルⅣ** 経営戦略・方針そのもの（課題）にかかる指摘
  ～組織全体に関わる課題
- **レベルⅢ** 経営計画等の有無、妥当性、進捗管理等の問題点の指摘
  ～事業部門ごとに改善を図るもの
- **レベルⅡ** 所管部署等の機能発揮面や体制面の問題点にかかる指摘
  ～レベルⅠの不備発生を引き起こす原因となるもの
- **レベルⅠ** 支所等の事務処理上の不備の事実（非違事項）の指摘

レベルごとの指摘件数の割合を見ると、全国700JAの1割ほどのサンプルから調査したものですが、レベルⅢ・Ⅳが～10％、レベルⅡが10～20％、レベルⅠが80％と、圧倒的にレベルⅠ（現場に対する指摘）が多くなっています。しかし、その中には、軽微なものばかりではなく、現場だけへの指摘ではすまないもの、組織と

して取り組まないと不祥事に発展しかねないという問題も少なからずあるというのが実態です。そのような問題は、現場だけの問題に留めず所管部の機能発揮という視点で指摘すべきものと言えます（レベルⅡの指摘）。

(4) 指摘内容の例（レベルⅡ）

実際に、そのような考え方でレベルⅡとして指摘している事例がありますので見てみましょう。

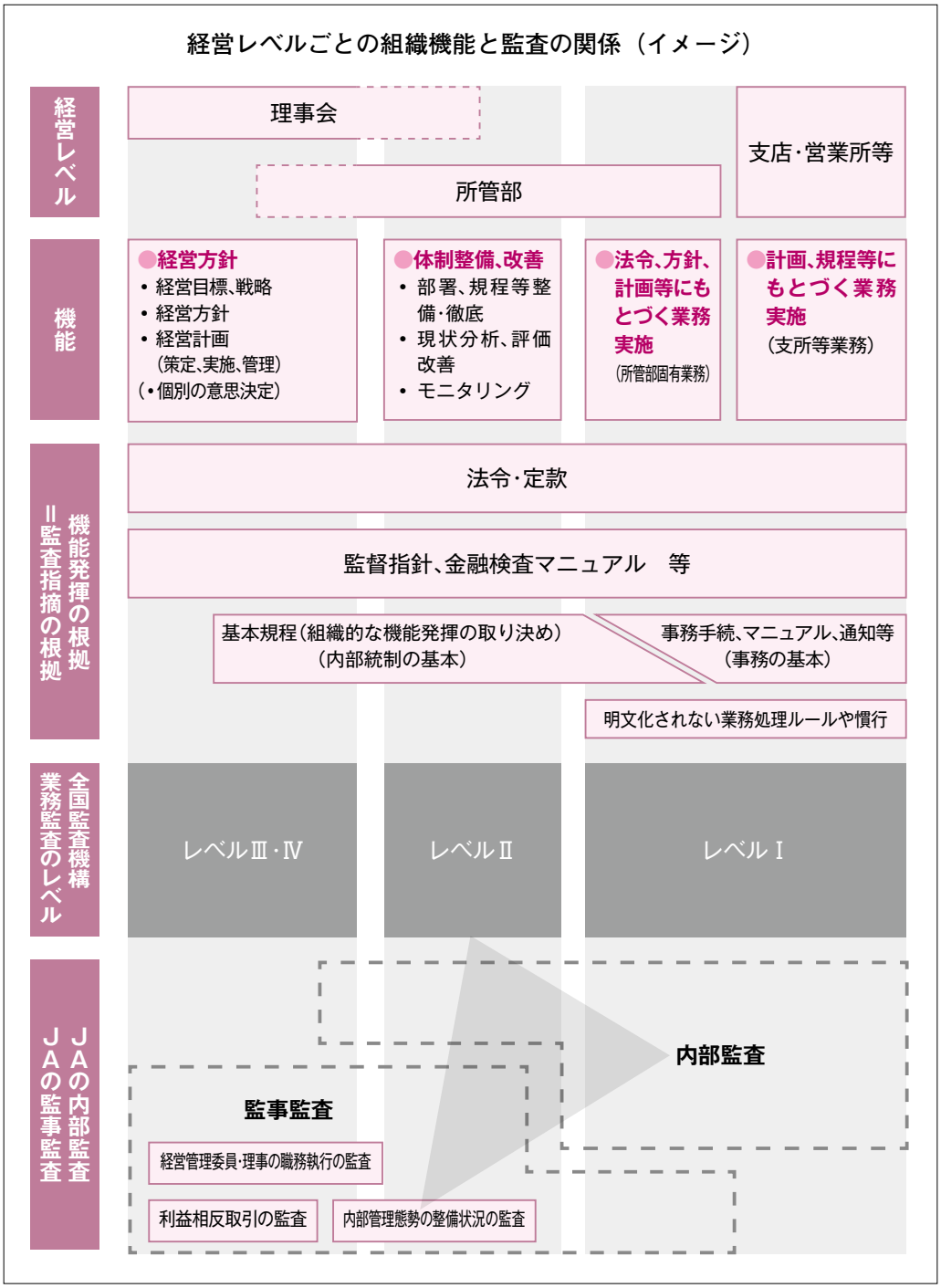
❶指摘「適切な事務処理の徹底」

「往査支店において貯金及び共済業務の事務処理状況を確認したところ、基本的な事務処理の不徹底や、役席者による検証が不十分な事案が認められた」という不備の発見に対し、指摘は「当該支店のみのものと捉えず、本店担当部署は各種会議・研修等で各担当者及び役席者に対して、基本的な事務処理の周知徹底を図り、事務改善に取り組むこと」と、所管部に対して所管部としての機能発揮を求めた事例です。

❷指摘「返却されたキャッシュカードの取り扱い」

「一部支店において、顧客の住所不明等によりＪＡに返却されたキャッシュカードを長期にわたり保管している例が認められた」ことについて、本店所管部に対しても「なお、全支店に対して、返却されたキャッシュカードの有無を調査し、適正な処理を指導されたい」と指摘している事例です。

これらの事例のように、プロセスチェックの考え方が活かされたものもありますが、ＪＡ全国監査機構では、この点をもっと強化したいとして取り組んでいるところです。



ＪＡ監事監査基準の業務監査の項目とプロセスチェックの視点

図「経営レベルごとの組織機能と監査の関係」のように、ＪＡ全国監査機構の業務監査は、監査対象組織の各レベルの広い範囲を見させていただいています。それに対し、内部監査は現場に近いところでの改善活動を担っておられるでしょうし、監事監査の範囲は当然経営レベルのところがメインになっていると思います。

先に述べたように、「ＪＡ監事監査基準」にある監事の業務監査の三本柱は、①経営管理委員および理事の職務執行の監査、②内部管理態勢の整備状況の監査、③利益相反取引等の監査ですが、「内部管理態勢の整備状況の監査」に関しては、監事は「内部監査部門等との連携及び**ＪＡ全国監査機構からの報告等を通じて**、内部管理態勢の状況を監視し検証しなければならない」ともされています。この点において、ＪＡ全国監査機構が所管部機能の強化のためのプロセスチェック型の業務監査に注力することは監事の監査活動にも貢献できるものと考えています。

プロセスチェック型の業務監査

(1) 指摘の方法

従来型のＪＡ全国監査機構における指摘パターンのイメージでは、現場の不備を現場に指摘するというものですが、これに対し、実際の金融検査における指摘事例を見ると「営業店における現金違算が複数店で継続的に発生している」という不備事項について、「事務指導部門」を指摘の対象として「（実態を臨店指導において把握しているにもかかわらず、）規程に基づく事務処理を指導していない」という指摘がなされています。プロセスチェック型の業務監査では、このようなパターンの指摘がもっと必要な場面があるのではないかというのがＪＡ全国監査機構の認識です。

(2) 回答書に求められるもの

プロセスチェック型の業務監査の実施に当たっては、指摘を受けた側からの回答書も、これまでの二段表（指摘事項／回答）から四段表（指摘事項／事実認識／発生原因／改善・対応策）に変えていく必要があります。

●四段表の考え方

ア 「事実認識」に基づく「発生原因」の重要性

「事実認識」では、何か問題があったとき、所管部や現場のどんな役割に不備があったのかをきちんと認識することが大事です。

どのような回答になるかというと、「所管部が**方針・規程類を整備していない、方針・規程類が不十分・不明確**」、「所管部が**方針・規程類を指示・周知していない、指示・周知が不十分**」、「現場が**方針・規程類に基づきやるべきことをやっていない、放置・見落としている**」、「所管部による**認識・検討が不十分・誤っている**」のような書き方になります。

事実認識の役割発揮の不備・不足が何によって生じたか、①組織としての意識の欠如、②現場の知識不足、③規程・ルールの不備、④体制上の問題、などの視点から「発生原因」を特定します。

イ 「改善・対応策」の主語が重要

これまでは、ミスを犯した人に指摘をしていたので主語は必要ありませんでしたが、今後は、その人を管理・指導する上のレベルに指摘をすることになりますので、犯人捜しということではなく、誰にボールを渡すか、主語を明確にすることが重要になります。

Ⅵ 金融検査での監査役・監事に関する指摘等

昨今、監査役・監事に対して、その機能発揮が強く求められています。ここでは、信金・信組を含む金融機関に対する金融庁検査の中で、監査役・監事に対してどのような指摘がなされているかを見ていきますが、農協の監事としても押さえておくべき事例を中心にお話しします。

「金融検査マニュアル」の「経営管理態勢」の「検証ポイント」には、

「……①代表理事、理事及び理事会による経営管理（ガバナンス）態勢、②内部管理態勢、③監事による監査態勢、④外部監査態勢の基本的要素がその機能を実効的に発揮しているかという観点から……経営陣の役割と責任が適切に果たされているか……」

と記載されています。そして、実際の指摘事例を見ると、

「……理事長等は、（中略）内部管理態勢の構築を十分図っていない。また、常勤監事も、理事長の業務執行に問題があると認識しているにもかかわらず、監事として提言を行っていない。」

というような指摘がなされています。ここでは、理事だけでなく監事も含めた経営管理の仕組みが十分かというチェックがされています。

ここでの監事に対する指摘は、先に述べた監事の役割の三本柱の一つ「内部管理態勢の整備状況の監査」に関わる問題です。

同じく「経営管理態勢」の「Ⅲ. 監事・監事会による監査態勢の整備・確立状況」の「監査の実効的実施」では監事の業務監査について次の記載があります。

「監事及び監事会は、付与された広範な権限を適切に行使し、会計監査に加え、業務に関する監査を実効的に実施しているか。監事会が設けられている場合であっても、各監事は、あくまで独任制の機関として、自己の責任に基づき積極的な監査を実施しているか。」

実際の指摘事例を見ると、

「常勤監査役は、経営に重大な影響を及ぼす事象等に対する意見具申が不十分である旨の前回検査指摘を踏まえ、取締役会での意見表明に努めることとしている。しかしながら、常勤監査役は、（中略）取締役会等に対し問題提起を行っていない。」

といった指摘がされています。まさに監査役・監事が業務監査を実効的に実施しているかどうかが問われているのです。この指摘は、監事の役割の三本柱の一つ「理事の職務執行の監査」に関わる指摘となっています。

次に、同じく「Ⅲ. 監事・監事会による監査態勢の整備・確立状況」の「理事会等への出席」では、

「監事は、理事会に出席し、必要に応じ意見を述べるなど、理事の職務執行状況について適切に監査を行っているか。また、監事は、必要に応じ、理事会以外の理事会等に出席し意見を述べる等、適切な監査のための権限行使を行っているか。」

これに関しては、

「監査役については、（中略）常務会等重要会議に出席しておらず、議事録の閲覧も行っていない事例が認められるなど、経営陣に対する牽制機能の発揮が不十分……。」

という指摘事例がありますが、このほかにも監査役・監事が指摘を受けた事例が多数あります。これまでは、監査役・監事に対する指摘は、そうそう数あるものではなかったのですが、近年、結構多く見られるようになりました。これは、検査当局の監査役・監事に対する期待・関心が高まってきていることの表れではないかと思います。しかも、内容も細かいところまでの指摘となっています。このような情勢が進みつつあるということを皆さんにもご理解いただきたいと思います。これらの指摘事例を見ると、やはり、監事の役割・業務監査の三本柱に関わる指摘が多くなっています。

また、次のような指摘事例があります。

「……理事会は、（中略）……に関し見直しが必要であるとの指摘を（監事監査において）受けているにもかかわらず、具体的な対応を検討していない。」

という指摘です。これは、資産査定管理態勢についての経営陣に対する指摘ですが、監事監査の指摘に対して理事会が改善に取り組んでいないことが指摘されています。監事の指摘を真摯に受け止めて対応しないと、理事が当局から指摘されることになりますので、理事の皆さんは是非ご留意ください。

このことを最後に付け加えて、私の話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

（おわり）

DMSシステム平成25年集計結果

① DMSシステム参加農家が388戸となりました

DMSシステムは、今年で7年目を迎えております。年々参加者が増加し、平成26年4月1日時点では388戸となっています。

図1は参加農家戸数の推移をプラン別に集計したものです。「Aプラン」は本会が紹介している会計ソフト『e酪農経営』を酪農家自身が入力するプラン、「Bプラン」は記帳代行を依頼するプラン、「Cプラン」は記帳代行に加え申告書の作成を税理士に依頼するプランとなっています。「それ以外」はDMSシステムのデータベースを利用した経営分析及び経営相談の依頼を受けた戸数を表しており、平成25年度末には243戸と大幅に増加しております。「それ以外」が増加している要因には、①経営分析や経営計画作成の要望の高まり、②経営継承や法人化に関する相談の増加があります。昨年は、経営相談の依頼をきっかけにして、Aプランに参加される方が3戸おられました。

② 酪農経営の状況

表1は、平成24年度と平成25年度のDMS参加農家の平均値を比較したものです（単位は経産牛1頭あたりに換算してあります）。集計対象農家は、①平成23年度以前からDMSシステムに参加しており、②東北大震災の影響が無く、③経理処理方法に変更がない農家です。各年とも同一農家53戸を集計しております。

(1) 家族所得は7，323円／頭減少

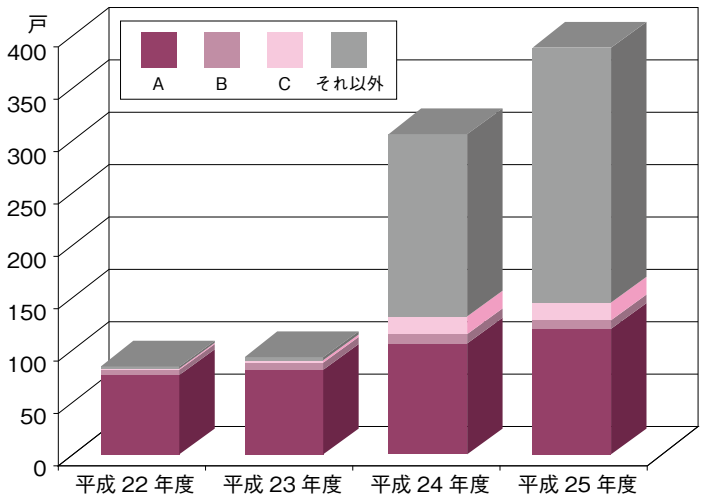
経産牛1頭あたりの家族所得はH24年90，576円、H25年83，253円、（前年比▲7，323円／頭）となりました。40頭規模の酪農経営では、家族所得が約29万円減ったことになります。

以下、家族所得の減少要因について見ていきましょう。

(2) 総収入は55，883円／頭増加

まず総収入ですが、昨年秋以降の飲用乳価上昇や生乳生産量の増加により、生乳売上高が52，200円／頭増加。また、肉用子牛相場が堅調に推移したことを受け、肉用子牛売上高が8，543円／頭増加しています。雑収入やその他売上高は減少しましたが、主要部門の売上が総収入の増加を

図1　DMSシステム参加農家戸数（H26年4月1日付）



	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
A	76	81	106	120
B	5	7	9	8
C	1	2	17	17
それ以外	2	3	174	243

牽引したと言えます。

(3)総支出は63，206円／頭増加

総支出で増加額が最も高かったのが、飼料費＋54，271円／頭です。40頭規模の場合、年間の飼料代が217万円増えたことになります。しかし、乳飼比の観点で考えますと、生乳売上高が増えていますので、H24年56・8％→H25年57・7％（＋0・9％）となり、飼料価格の値上がりの大部分を飲用乳価上昇と酪農家の飼養管理努力により抑制されていることが伺えます。

また、各費用科目の増加率を計算してみると、雇人費（＋16・3％）、動力光熱費（＋14・2％）であり、飼料費の増加率（＋10・6％）よりも高いことが分かります。外部雇用の増加やエネルギー使用単価の上昇は止まる気配がありません。今後、機械類の効率的な利用についても真剣に向き合うべき時期が来たのではないでしょうか。

(4)投資を控えている

昨年に引き続き減価償却費の減少傾向が見られます。酪農環境の不透明さから機械、設備、生物に投資が出来ない状況が伺えます。

(5)資金繰りは前年並み

酪農経営をキャッシュフローで見てみると、家計で利用できる現金は、ほぼ前年並みであったことが分かります。所得は減少しましたが、費用として計上されない育成牛振替高の減少等により手元に残る現金は若干増えたようです。とはいえ、期中においては、資金繰りに窮する場面が多く見られました。平成26年度は、消費税率も上がりますので、資金繰りの管理がより一層重要になります。

表1　酪農経営の変化　　経産牛1頭あたり（円）

	H24	H25	差
牛群動態/主な指標			
経産牛頭数	63	62	▲1
更新率	25.5%	26.0%	▲0.5%
死廃率	11.5%	9.3%	▲2.2%
乳飼比	56.8%	57.7%	0.9%
家族所得率	8.0%	7.7%	▲0.3%
総収入	1,049,209	1,105,091	55,883
生乳売上高	860,090	912,290	52,200
肉用子牛売上高	60,174	68,717	8,543
廃用牛売上高	16,102	18,665	2,563
その他売上高	31,086	27,404	▲ 3,682
雑収入	81,757	78,016	▲ 3,741
総支出	958,632	1,021,838	63,206
雇人費	28,916	33,615	4,699
飼料費	511,198	565,469	54,271
診療衛生費	17,599	21,142	3,543
動力光熱費	41,917	47,869	5,953
共済掛金	34,857	35,625	768
修繕費	31,364	29,488	▲ 1,877
支払利息	4,314	4,384	69
減価償却費	132,440	131,431	▲ 1,009
その他経費	156,027	152,816	▲ 3,211
家族所得	90,576	83,253	▲ 7,323
フリーキャッシュ	158,985	156,278	▲ 2,707
借入金償還額	95,180	88,105	▲ 7,075
キャッシュ残（家計、税金支払い、再投資に利用）	63,805	68,173	4,368

注1）集計農家は東電賠償に関わる農家を除いた53戸である。
注2）各年、同じ農家をサンプリングしている。
注3）フリーキャッシュ＝家族所得+減価償却費-育成振替高＋廃牛売却原価である。
注4）その他経費は「種苗費」「肥料費」「農具費」「作業衣料費」「賃借料」「諸材料費」「荷造り運賃手数料」である。

③これからのDMSシステム

DMSシステムで紹介している会計ソフト『e酪農経営』は平成26年度にSaaS化を進めていきます。SaaS化とは、インターネットで利用できるソフトのことで、データをインターネット上に保存することになります。個人情報の保守、複数の同時ログインが可能になることからサポート体制がさらに厚くなります。

今後のDMSシステムにご注目ください！

仙台支所発

『がんばろう東北の酪農』キャンペーン
― こどもの城(渋谷)で牛乳・乳製品のPR ―

去る6月14日㈯、東京都渋谷区のこどもの城にて、『がんばろう東北の酪農』キャンペーンが開催されました。

安心で安全な東北の牛乳・乳製品をPRするため、国立総合児童センター・こどもの城（東京都渋谷区。公益財団法人児童育成協会運営）、渋谷区少年団体連盟（鈴木貴代子会長）、宮城県牛乳普及協会（濱田茂会長）の協力のもと、東北酪農青年婦人会議（半澤善幸委員長）主催で開催され、今年で3回目を迎えました。

イベントでは、酪農を紹介するための『酪農家の一日』や『牛乳ができるまで』、『乳牛のからだのしくみ』などをパネルで展示し、都会の消費者に分かりやすく紹介しました。また、お父さんの似顔絵を描く『父の日に牛乳を贈ろうコーナー』では、「お父さんにプレゼントする～！」と笑顔で持って帰る子供たちで賑わいました。

牛乳パックで作る帽子を紹介するコーナーでは、はさみとセロハンテープ、ホッチキスを駆使して一生懸命に作る親子連れであふれ、『牧草プール』では敷き詰めた牧草に寝転び、草まみれになって遊んでいるお子さんの姿を見て、「こんな遊びはほかではできない」と写真に収める多くのお母さん方の姿が見られました。

牛乳・乳製品の試飲・試食のテントでは、来場者に「おいしくて冷たい牛乳はいかが」と呼びかけ、2本3本とまとめ買いをするお客さんもいて、用意した牛乳・乳製品は瞬く間に完売しました。

梅雨の晴れ間も功を奏し、「去年も来ました」とのお客さんも多くいましたが、こどもの城は来年3月末の閉館が決まっています。次回開催は未定ですが、スタッフにも「今後も続けようよ」との声が多く、終了後の慰労会では、何らかの形で東北の酪農をPRできるよう取り組んでいこうと、語り合いました。

(I.M)

◀牛乳・乳製品をPR

▲ 牛乳・乳製品は瞬く間に完売

◀お父さんの似顔絵を描く子どもたち

▶牛乳パックで帽子作成中

◀牧草プール

仙台支所発

東北酪政会 活動再開
― 酪農政治連盟東北ブロック協議会 ―

▲ 東北酪政会新会長 鈴木衆議院議員

去る５月22日㈭、自由民主党本部において、酪農政治連盟東北ブロック協議会緊急集会が開かれました。

これは、平成21年以降その活動が停滞していた自由民主党東北酪政会の活動を再開させるためのものであり、当協議会の活動趣旨に賛同する東北選出の自民党衆参両議員30名と、関係団体を含む66名にて開催されました。

酪政連東北ブロック協議会佐々木勲会長は、「大変厳しい状況だが、次の世代へ酪農産業を託すためには、生産現場と国会が一体となり、知恵を出しあい、参加の皆様には最大限の活躍をお願いしたい」と挨拶しました。

▲ 緊急集会

東北酪政会前会長の元衆議院議員二田孝治氏（全国農業会議所会長）は、「皆さんで今後の酪農をよき方向に導き、大いなる発展を祈念する」と述べました。

大島理森氏（青森３区衆議、前自民党副総裁）は、「震災の宿題、後継者問題など切実な話ばかり。東北は一つという思いで頑張ろう」と話し、「新会長は鈴木俊一氏（岩手２区衆議）にお任せしたい」と鈴木氏を会長に推しました。

集会は鈴木新会長の進行で意見交換に移り、酪政連からは生産現場の課題や要望が出され、同席の国会議員からは東北の酪農の支えになることを感じさせる力強い言葉が返ってきました。

（I.M）

仙台支所発

東北酪農専門団体協議会・日本酪農政治連盟東北ブロック協議会 合同研修会開催される

合同研修会の様子 ▶

◀ 右から佐々木会長、原田会長、本田調整官、但野委員

去る６月２日㈪、法華クラブ仙台において、東北酪農専門団体協議会（酪専団。会長：原田陽一山形県酪農業協同組合代表理事組合長）と、日本酪農政治連盟東北ブロック協議会（東北酪政連。会長：佐々木勲岩手中央酪農業協同組合代表理事組合長）による合同研修会が開催されました。

この日は酪専団の第20回通常総会が開催され、研修会はこの総会に引き続き開催されました。

研修会は佐々木会長の開会挨拶に続き、「最近の酪農情勢と課題について」と題して農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調整官 本田光広氏による講演が行われました。研修会はパネルディスカッションに場を移し、酪専団から原田会長、但野忠義委員（福島県酪農業協同組合代表理事組合長）が、東北酪政連からは佐々木会長、柴田輝男副会長（秋田県酪農連盟会長）がパネラーとして登壇し、酪農情勢の現状・課題について進められました。

参加者を交えた意見交換会では、生産基盤確保のため、国土保全の観点から耕畜連携による農地基盤整備や自給飼料関連対策の強化や、再生産可能な乳価実現のための補償制度の充実の検討などの声が上がり、補助事業についても、現場に即したより利用しやすいものへの検討など様々な提案が上がりました。

（I.M）

東京支所発

関東甲信越酪肉経営技術研究会総会を開催

標記、関東甲信越酪肉経営技術研究会の「第23回通常総会」が、6月12日㈭、長野県小諸市の「常盤館」にて開催されました。事務局も含め15名の参加があり、議事としては、平成25年度事業報告並びに収支決算承認の件、平成26年度事業計画並びに収支予算書承認の件等、4つの議案が上程され、いずれも原案通りで可決承認されました。

総会終了後は、全酪連購買部酪農技術研究所の猪内研究員より、「全酪連の肥育事業について」と題して研修会を開催しました。子牛の事故を減らし、効率的な牛肉生産を実現するための最新技術などを学ぶことが出来ました。

（S.T）

▶総会の様子

▲ 猪内研究員による研修会

東京支所発

関東甲信越酪農青年女性会議新役員決定

関東甲信越酪農青年女性会議の平成26年度通常総会が6月19日㈭、港区勤労福祉会館で開催されました。総会では、平成25年度事業報告及び収支決算承認の件などが上程され、全議案共に原案通り可決承認されました。平成26年度の事業としては、酪農発表大会やスポーツ大会などのほかに酪農理解醸成活動などの計画案も盛り込まれました。また、任期満了に伴う役員改選が実施され、委員長を2期勤めた野村栄一氏（茨城県酪農青年女性会議）が退任され、新委員長には小森崇宏氏（栃木県酪農青年女性会議）が就任されました。小森崇宏氏は副委員長を1期勤めてから委員長に就任することになります。

▲ 総会の様子

▲ 新旧役員

主な新役員は次の通りです。副委員長には遠藤ゆり子氏（群馬県酪農青年女性会議連絡協議会）及び小松正平氏（長野県酪農青年女性会議）、監事には野村栄一氏（茨城県酪農青年女性会議）及び斉藤忠氏（埼玉県酪農業協同組合）がそれぞれ就任されました。また、顧問には相馬義樹氏（栃木県酪農青年女性会議）が再任されました。今後、小森委員長を中心に活発な活動を展開することになります。

（S.T）

大阪支所発

酪農生産者と共同で「父の日に牛乳(ちち)を贈ろうキャンペーン！」実施

JA兵庫六甲（北畑親昭代表理事組合長）は、６月14日㈯と15日㈰の２日間にわたり、酪農部会役員と乳業メーカー等関係機関との共同で「父の日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」を展開しました。

当日は「農協市場館　六甲のめぐみ」（神戸市西区）にて、増田部会長が先頭に立ち、雪印メグミルクの担当者と農協畜産担当者が消費者に試飲を奨めながら、似顔絵台紙や缶バッチ等を配布してキャンペーンの訴求を図りました。ご家族連れに、「父の日に似顔絵を描いて、牛乳と一緒に渡しませんか」と声を掛けると、家で描くと喜んで台紙を持ち帰っていました。週末には新鮮野菜を求め約３千人の来場者が押し寄せるこの市場館ですが、朝から溢れんばかりの消費者で、牛乳の試飲も用意した牛乳が１時間半程でなくなる盛況ぶりでした。

また、他の直売所（パスカル三田、農野花、道の駅淡河、スマイル阪神）でも酪農部会役員と乳業メーカーがキャンペーンを展開しました。

（S.T）

▲ 農協市場館 六甲のめぐみにて

新規就農 経営移譲 を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または**全国農業会議所の全国新規就農相談センター**にアクセスしてみてください。

酪農ヘルパー全国協会

http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html

全国新規就農相談センター

http://www.nca.or.jp/Be-farmer/index.php

全酪連のホームページからも入れます。

http://www.zenrakuren.or.jp/

全酪連ホームページのトップ
↓
右下リンク
↓
新規就農情報［(一社)酪農ヘルパー全国協会］
新規就農情報［全国農業会議所］

福岡支所発

「ハッピーミルクフェスタ2014」開催される
― 九州生乳販売農業協同組合連合会 ―

去る６月７日㈯、福岡市中央区「福岡三越ライオン広場」において、九州生乳販売農業協同組合連合会（尾形文清代表理事会長、以下九州生乳販連）主催による牛乳消費拡大PRイベント「九州Love Milk Club presents FM Fukuoka ハッピーミルクフェスタ2014」が開催されました。

このイベントは、消費者に生産者の牛乳作りに対する真摯な姿勢を伝え、生産者と消費者の距離の近さや九州産牛乳の安心感を訴求し酪農に対する理解醸成や牛乳消費拡大につなげる事を目的に開催されました。

今回は福岡市の中心部での開催とあって、スタートと同時に家族連れを中心に沢山のお客さんが会場に詰めかけました。

会場内特設ステージでは、尾形会長と㈳中央酪農会議の内橋政敏事務局長が審査員となり「牛乳ヒゲコンテスト」が行われました。年齢を問わずたくさんの方が参加され、一生懸命牛乳を飲んで“牛乳ヒゲ”をつけた姿に会場は大いに盛り上がりました。

続いて九州生乳販連　尾形会長によるトークショーが行われ、酪農家の１日の仕事、九州の牛乳の必要性や安心感、そして牛乳の日について説明され、ステージ前を埋め尽くした多くのお客さんが尾形会長の話に聞き入っていました。この後ステージではお笑い芸人のライブやミニコンサートが行われました。

▲ 九州産牛乳パッケージ

▲ 尾形会長トークショー

▶牛乳クイズ

◀展示コーナー

会場内及び周辺街頭では、地元福岡県内の酪農家の方々も加わって、酪農や牛乳に関する情報を載せたリーフレットの配布、骨密度測定や牛乳の試飲コーナー、牛乳クイズが行われ、それぞれのコーナーには長蛇の列が出来ていました。また牛の等身大パネル、九州域内の乳業者が製造している牛乳パック、「酪農家の１日」パネルの展示等も行われ、こちらも大変好評でした。

会場での様々なイベントを通して、九州の酪農、牛乳の魅力を多くの消費者の方々に伝えることができ、“牛乳月間”にふさわしいイベントとなりました。

（Y.K）

左から利弘さん・より子さん・尚徳さん ▲

日本酪農

見て歩紀

No.254

池田利弘牧場

宮崎県都城市

家族一丸となって築く堅実な経営と6次産業への取り組み

地域の概況

都城市は、宮崎市から西南西約50㎞、鹿児島市から東北東約90㎞の宮崎県の南西部の内陸地に位置し、北西に高千穂峰をはじめとする霧島連山を仰ぎ、周辺を山地に囲まれた広大な盆地です。標高が高いため、年間の平均気温は16度前後とやや冷涼であり、年間降水量は毎年2，000～2，500㎜前後で、冬場は毎年数日程度の降雪日もあります。

日本有数の農業地域で、特に牧畜業は盛んであり、「市町村別農業産出額畜産計」が全国第1位となっています。

経営の概要

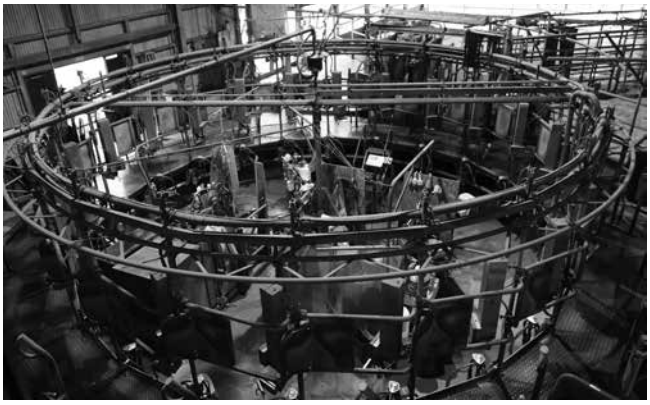
池田牧場は、経営主の利弘さん、奥さんのより子さん、長男の尚徳さん、長女の知加子さん、次男の大輔さん、三男の義嗣さん（現在削蹄師の研修で県外に在住）の6人家族。現在は利弘さん、より子さん、尚徳さん、大輔さんの4人が中心となって飼養管理を行っています。飼養頭数は経産牛120頭、未経産牛6頭、育成牛4頭の計130頭で、年間総生産乳量は1，234・461t（H25年実績）となっています。

池田牧場の所属する宮崎県南部酪農業協同組合（今山努代表理事組合長）は、昭和27年に設立された歴史ある組合で、生乳出荷戸数24戸、年間生乳生産量7，178t（H25年度実績）です。同組合では、設立当初から管内酪農家で生産された生乳処理販売の一貫体制の確立に努められ、昭和35年に同組合の処理事業及び施設を引き継ぎ、南日本酪農協同株式会社が設立しました。宮崎、鹿児島の酪農家が主要な原料供給元となり、牛乳、乳飲料、そして日本で初め

ての乳性炭酸飲料「スコール」等、同社の製品は、九州はもとより、関西、首都圏まで広く流通しています。

飼料給与は、全酪連中九州TMRセンターにて製造しているTMR飼料「池田TMR」に、5町歩の自作地で作付けしているデントコーンをサイレージにして混ぜ、1日40～50kg給与しています。乾乳牛には、専用TMR「ドライチャレンジ」を14～15kg給与しています。

平成16年に「20年後を見据えて」九州でもいち早く導入したロータリーパーラーで、朝夕2回搾乳を行っています。牛舎内にはエサ寄せロボットを導入し、作業の省力化、効率化を図られています。1時間に1回自動でエサ寄せを行うので、全ての牛がまんべんなく食い込めるようになったそうです。作業の省力化にもつながり、牛の状態をしっかり観察できる時間が作れるようになったと利弘さんは話されていました。


ロータリーパーラー

エサ寄せロボット

糞尿処理は、牧場内の堆肥舎で堆肥化し、飼料畑へ還元したり、戻し堆肥としてフリーバーン牛舎に使用されています。その他、昨年乳頭洗浄機を導入し、衛生的な搾乳を行い乳房炎の予防を心がけておられるほか、牛群検定情報の有効活用と暑熱対策の徹底により牛群全体の能力向上と改良に努められており、池田牧場の牛群は平均10，000kgの乳量を維持しています。

牧場の歴史

池田牧場の歴史は、昭和28年に利弘さんのお父さんが乳牛1頭を飼養したことから始まりました。利弘さんは昭和54年に経営を移譲され、以後頭数を増やしながら経営を進めて来られました。利弘さんは、平成3年まではサラリーマンと酪農家の兼業だったそうです。また、新牛舎建設の借入のためにはある程度の財産を持っておかないと信用を得られないと考え、飼料畑を集積し、牛舎を建てるための土地も購入されました。

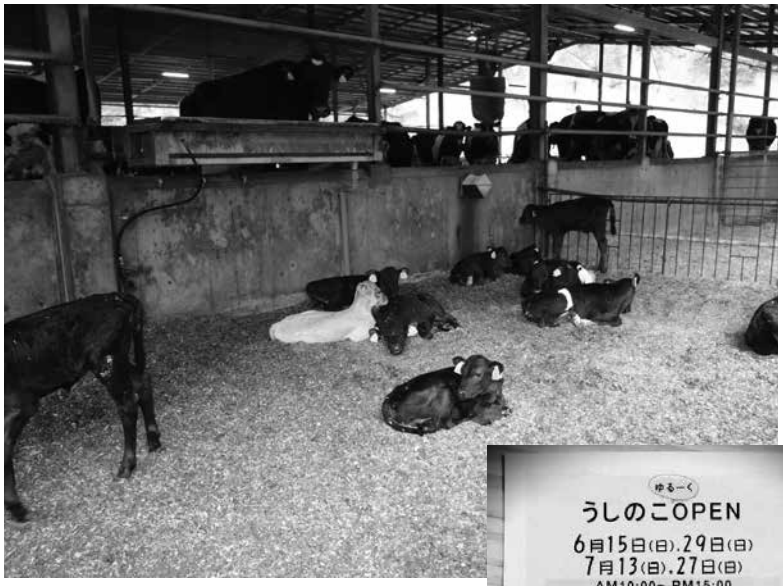
平成16年に現在の場所に移転し、つなぎ牛舎からフリーバーン牛舎への飼養管理に転換されました。新牛舎を建てた土地は火山灰層のシラス台地で、土地を切り拓いて整地する作業は、業者と共に池田さん一家総出で作業を行ったそうです。

牛舎内

ナチュラルチーズ製造への取り組み

池田牧場では、長女の知加子さんがナチュラルチーズ製造に取り組んでおられます。搾りたての生乳で乳製品を作り、牛乳の普及活動をやっていきたいという思いがあった知加子さんは、乳製品の中でも、特に惹かれたナチュラル

チーズの製造に取り組む事を決意しました。九州ではナチュラルチーズの製造販売を行っている工房も多いため、知加子さんはこれらの工房や、酪農家によるチーズ製造販売が盛んな北海道まで研修に行かれるなど、熱心に勉強されるとともに、フードビジネスコーディネーターの資格を取り、その後も試行錯誤を繰り返されました。工房開設のための許認可の関係で苦労をされましたが、2年前に自宅敷地内に念願のチーズ工房「うしのこ」を開店されました。開店当初は各地のイベントに参加して販売を行っていたそうですが、最近ではイベントでの販売のほかに、月2回ほど工房での販売を行っています。池田牧場の牛群の中には、ホルスタインに混ざって5頭のブラウンスイスがいます。知加子さんが作るチーズは全てブラウンスイスの乳を原料としています。ブラウンスイスの乳はチーズにすると濃厚な甘みがあり、製造の際の歩留まりが良いそうです。現在、フレッシュタイプを中心に6種類程のチーズを製造されており口コミなどにより知加子さんの作るチーズのファンは着実に増え、いまではイベント、工房での販売日に準備したチーズは全て完売するそうです。今後は製造量、アイテム数を増やしてもっと多くの人たちにおいしいチーズを食べてもらいたい、と知加子さんは語っておられました。



▲ 哺育牛舎

チーズ工房「うしのこ」開店案内 ▶

今後の目標

今後の目標を利弘さん、そして後継者である尚徳さんに伺ったところ、「当面は現状の頭数、乳量を維持して安定した経営を維持しつつ、将来は法人化をめざしたい。そして、搾乳ロボット等の新しい技術を積極的に取り入れ、飼養頭数の増頭も考えていきたい」と語っておられました。

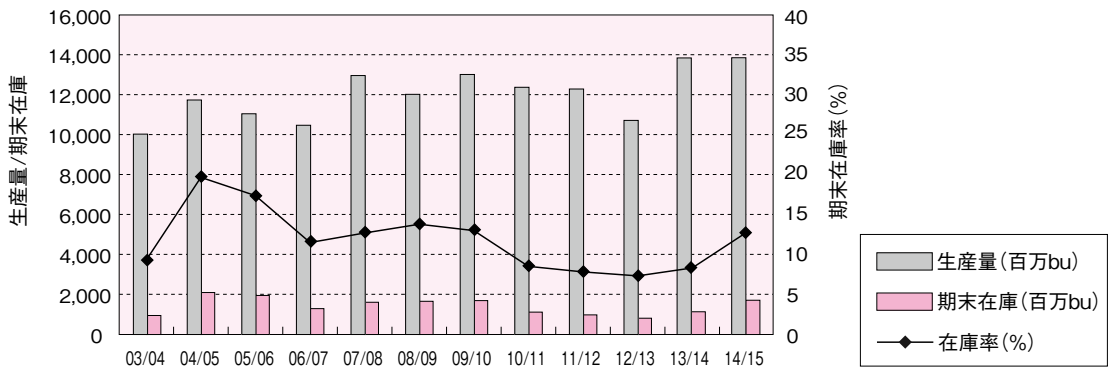
取材を通じて、これまで池田さんの家族全員が手を取り合って、現在の堅実な経営を確立されてきたことを強く感じました。知加子さんが中心になって取り組まれているチーズの製造販売も、今後の展開がとても楽しみです。

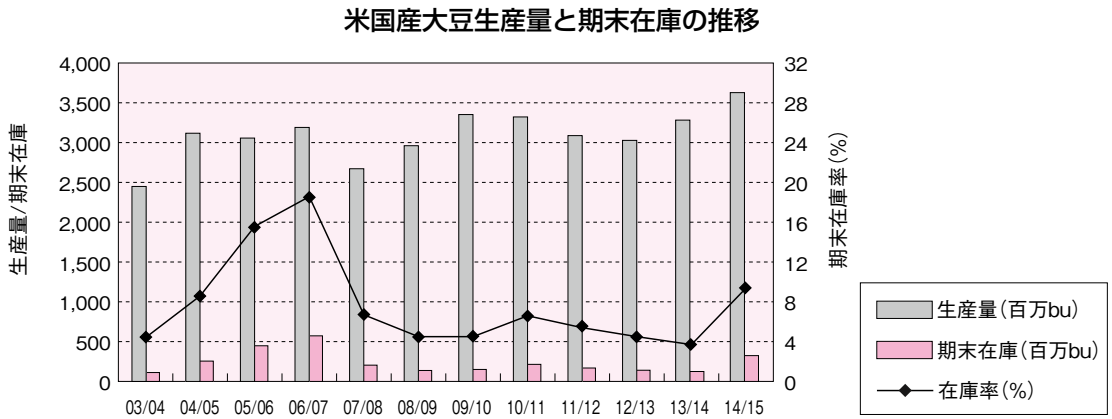
池田牧場の更なる発展を祈念致します。

牛群

原料情勢 平成26年6月

6月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【13/14年産】 作付面積95.4百万(前月95.4百万) エーカー、単収158.8 (158.8) bu ／エーカー、生産量139億2,500万 (139億2,500万) bu、総需要量136億3,500万 (136億3,500万) bu、期末在庫11億4,600万 (11億4,600万) bu、在庫率8.4(8.4)%。
	【14/15年産】 作付面積91.7百万(前月91.7百万)エーカー、単収165.3(165.3)bu ／エーカー、生産量139億3,500万(139億3,500万)bu、総需要量133億8,500万(133億8,500万)bu、期末在庫17億2,600万(17億2,600万)bu、在庫率12.9(12.9)%。
トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場は500¢を超える値動きだったが、エタノールの使用量が減少したことや好天により作柄が良好となったことから440¢台まで値を下げた。新穀については、このまま好天が続けば豊作が期待されるものの、単収に最も影響する受粉期を残しており、この期間の米穀生産地の天候には注意が必要。作付面積の減少による生産量の低下の可能性も残されている。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の13/14年見通しは、需要面・搾油で増加し、期末在庫見通しは1億2,500万 (1億3,000万) bu、在庫率3.68 (3.8) %となった。14/15年見通しは、供給面で期初在庫の減少があり、期末在庫率は9.42%。シカゴ大豆相場は、産地天候予想が良好なことから若干値を下げているが、依然として世界的な蛋白原料への需要増加から高値で推移しており、しばらく続く見込み。国内需給は、発生量は前年対比で若干増加している。輸入大豆粕は、需給の締まりが改善に向かっているが、依然として高値で推移。中国ではGMO問題に絡み米国からの輸入DDGSを拒否する可能性があり、代替品として大豆粕需要が増加する懸念がある。
糟糠類	国産フスマは、季節的な要因から生産量が増加傾向だが、原料小麦が良品であることから歩留まりは悪く、発生量は思ったほど伸びていない。しかし、飼料用の需要も減少しており、需給バランスは適正になりつつある。グルテンフィードは、国内で発生期を迎えていることに加え、原料用トウモロコシの品質が悪いことから歩留まりが良く、発生量は増加。余剰感が生まれており、総じて市況は軟化傾向となっている。
海上運賃	ブラジルの停船が少ないことや、ガルフ出しの鋼材が少ないことから、大西洋の荷動きが鈍化。また、太平洋地域でも中国の輸入量の減少があり、軟調に推移している。一方、10月積以降は新穀期に対する期待が根強く、期近ほど値を崩していない模様。今後は徐々に値を切り上げていくと思われる。





輸入粗飼料の情勢 平成26年6月

北米コンテナ船フレート	4-6月のBAF（燃料調整係数）は$5値上げだったが、7-9月は$14値下げを発表。北米西海岸での労使交渉に進展は見られず、最悪の場合ストによる各港の閉鎖（前々回の02年では交渉が決裂し、9月下旬から10日間の各港閉鎖によりデリバリーが正常回復するのに半年を要する事態となった）も懸念されるため注意が必要。
ビートパルプ	【米国産】14年産作付がほぼ完了。主産地では、冷涼な気候のため2週間ほど進捗が遅れている模様。カリフォルニア州内の干ばつの影響からアルファルファが高騰し、米国内でビートパルプの引合いが強くなっているため、産地価格は堅調に推移している。
	【中国産】13年産の作付面積は前年よりも減少しており、国内市場の拡大が進んでいるため、輸出数量も限定的でタイトな状況が続くことが見込まれる。
アルファルファ	**西海岸全体でアルファルファの生産量が減少していること、米国乳価が史上最高値で推移していること、干ばつの影響により米国内の酪農家や肥育農家が積極的に購入し“パニック買い”を起こしていること、UAEや中国向けの買付けが旺盛なことにより、14年産はどの産地も高値でスタートしている。今後は米国内酪農家の強い引合いがいつまで続くか注目されている。**
	【ワシントン産】産地では14年産1番刈の収穫が続く。作柄・品質は全般的に良好であり、一部で起きた雨当たり被害も含めて、米国内酪農家が積極的に買い付けている模様。米国のみならず中国の引合いも強く、更なる価格高騰が懸念される。
	【オレゴン産】産地では6月上中旬から1番刈の収穫が始まる予定。作柄に関わらず、カリフォルニア州内酪農家からの引合いが強く、産地価格の高騰が懸念される。
	【ユタ産】5月中旬の降雪により霜害による生育の遅れや雪の重みによる倒伏も一部発生している模様。
	【ネバダ産】干ばつの影響で農業用水が不足し、2番刈で終了する圃場も多く出る見込み。早い圃場では5月下旬から1番刈が始まっているが、一部で雨当たり被害が発生している模様。
	【北カリフォルニア産】干ばつの影響を最も受けている地域で、農業用水の不足により2番刈で終了する圃場も多く出てくる見込み。全米一の生乳生産地帯である北カリフォルニアでは産地価格が前年比$70/t以上も高騰して推移している。また、産地では盛んなアーモンドの作付が増えているとの情報もあり、作付面積も減少していると予想される。
	【インペリアルバレー産】14年産作付面積は前年比104%。産地では3番刈の収穫が始まる。産地価格高騰により、輸出向けは手が出せない状況。
チモシー	【米国産】14年産作付面積は前年比5～10%増の予想。主産地では6月上中旬から1番刈の収穫が始まる予定。近年では日本以外の他国向けにも需要が広がっており、作柄が良くても期待以上に価格は下がらないのでは、と予想されている。
	【カナダ産】近年は生産コストに対して高く売れることから、主産地での14年産作付面積が増えることが予想される。
スーダン	【インペリアルバレー産】小麦の作付面積が減少していることから、早播きスーダンの作付面積は前年対比108%と増加した。産地では、現在1番刈の収穫が進んでいる。温暖な気候のため、昨年より1週間早い進捗。良品の発生が期待されるものの、日本向けの引合いが強く、産地価格は強含みで推移する見込み。
クレイングラス	インペリアルバレーの5/15時点での作付面積は前年対比104%。産地では現在2番刈の収穫が進んでいる。良品の発生が期待されるが、韓国向けの引合いが強く、産地価格は堅調に推移。13年産チモシーのローグレードが韓国向けに受け入れられず、14年産クレイングラスに需要が移行しているためと思われる。
バミューダ	インペリアルバレーの5/15時点での作付面積は、前年対比94%。種子の生産意欲が旺盛なことから、14年産の作付面積は増えても、バミューダヘイの生産量は減少する見込み。
ストロー類	14年産の米国産ストロー類の作付面積は昨年よりも増加する見込み。近年続いた種子価格の低迷による作付面積の減少は、ようやく歯止めがかかってきたとも言われている。一方で、13年産は韓国向け需要が減退したこともあり、14年産の価格次第では種子収穫後にストローを集荷しない農家が増えることも予想される。
オーツヘイ	13年産は、雨当たり被害はあるものの大半が軽い雨で済んでいるため、ハイグレード品は限定的で、見た目がきれいなローグレード品が多く発生している。どの産地も生育中にも降雨が十分にあったため、単収は例年より多いものの、雨に当たっていないスタックでも分析値はあまり良くない傾向。ハイグレード品の価格は強含みで推移しているものの、中間・ローグレードの価格は弱含みで推移しており、日本・韓国向け共に荷動きが順調。産地では14年産の播種がほぼ終了。十分に降雨があったため、オーツヘイより播種時期が早く、安定的な収益が見込める小麦やキャノーラの作付が増えており、オーツヘイの作付面積の減少が早くも予想される。

生乳受託販売乳量

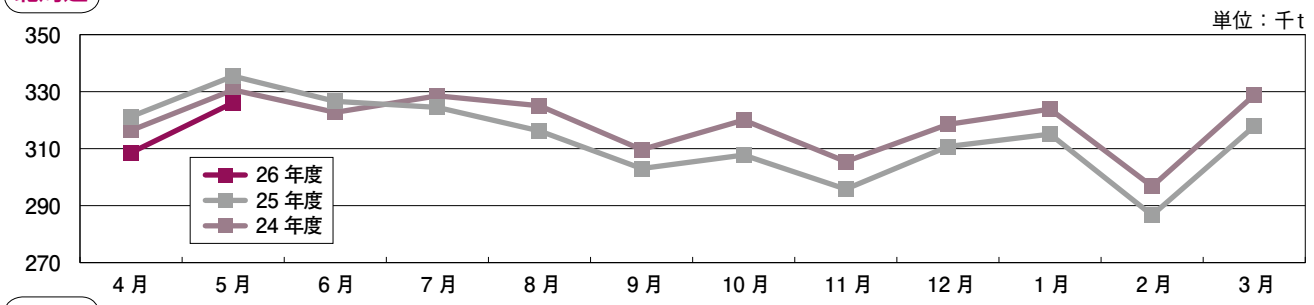
受託販売乳量

全国　627,681t で、前年同月比21,175t(3.3%) 減少

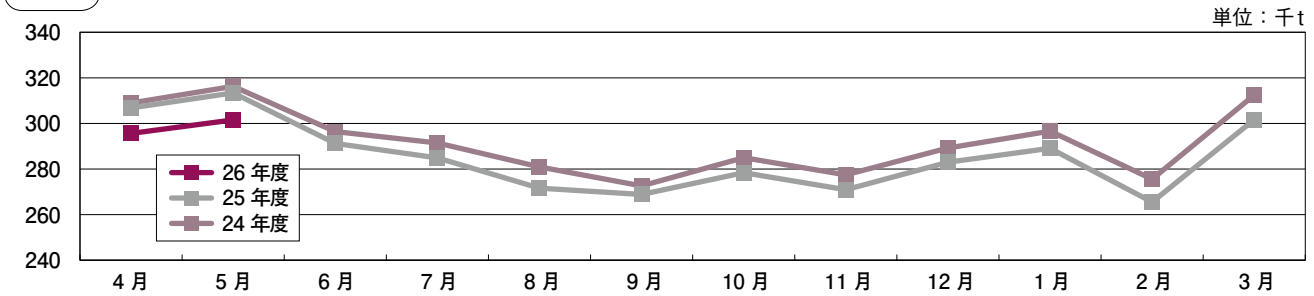
都府県 301,554t で、前年同月比 11,853t(3.8%) 減少

北海道 326,127t で、前年同月比　9,323t(2.8%) 減少

北海道



都府県



用途別販売数量

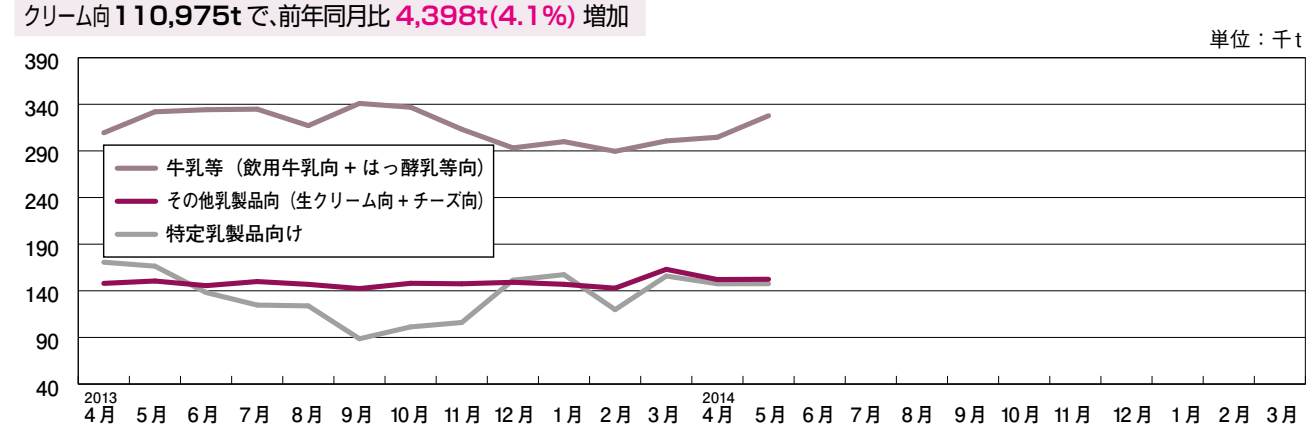
飲用向　285,474t で、前年同月比 2,766t(1.0%) 減少

チーズ向　41,390t で、前年同月比　2,528t(5.8%) 減少

はっ酵乳向　42,240t で、前年同月比 1,460t(3.3%) 減少

特定乳製品向 147,600t で、前年同月比　18,819t(11.3%) 減少

クリーム向 110,975t で、前年同月比 4,398t(4.1%) 増加



各地の需給動向

＊前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

【東北】5 月の生産は前年比 95.0%。日量は 4 月からほぼ横ばい。需要は、上旬のGW後半から中旬にかけては低調であったが、その後は徐々に回復した。(飲用牛乳向前年比 101.2%、特定乳製品向前年比 72.7%)

【関東】生産は 4 月中旬から下旬がピークとなり、5 月上中旬はピークから若干減少したところで横ばい。下旬は急激な暑さからもう一段階減少した。5 月全体では前年比 96.4%。乳業者の処理は、上中旬は低調。下旬にむけて徐々に回復した。(飲用牛乳向 98.3%、特定乳製品向 85.7%)

【東海】生産は前年比 96.1%。上中下旬と徐々に日量減少。特に愛知の減少が大きい。(飲用牛乳向 96.3%、特定乳製品向 99.8%)

【近畿・中国・四国】生産量は全体的に低位安定。4 月末～ 5 月頭にかけてなだらかなピークとなった。(近畿 95.7%、中国 95.5%、四国 95.8) 処理は、GW 後半は全体では伸びず、下旬までは重ためで推移。下旬は処理が伸びた。(飲用牛乳向：近畿 96.0%、中国 94.9%、四国 100.1%)

【九州】生産は前年比 97.9%。処理はGW中も好調。その後も各社堅調であった。(飲用牛乳向 97.6%、特定乳製品向 84.9%)

用途別生乳処理量

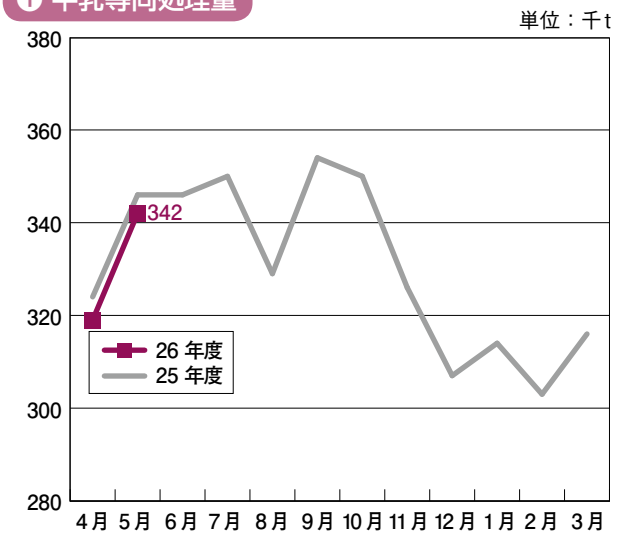
単位：千t

年月	生乳生産量	用途別処理量計		乳製品向		その他乳製品向		
			牛乳等向①		特定乳製品向②		クリーム向③	チーズ向④
2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44
5月	671	666	346	320	167	153	107	46
6月	638	633	346	287	141	147	105	42
7月	632	627	350	278	126	151	109	42
8月	608	603	329	274	127	147	107	40
9月	593	588	354	235	91	144	107	37
10月	608	604	350	253	104	150	109	40
11月	588	583	326	257	108	149	111	38
12月	616	612	307	305	153	151	114	37
2014. 1月	626	622	314	308	158	150	103	47
2月	573	568	303	265	121	144	102	43
3月	643	638	316	322	159	163	117	47
年度計	7,447	7,390	3,964	3,426	1,626	1,800	1,298	502

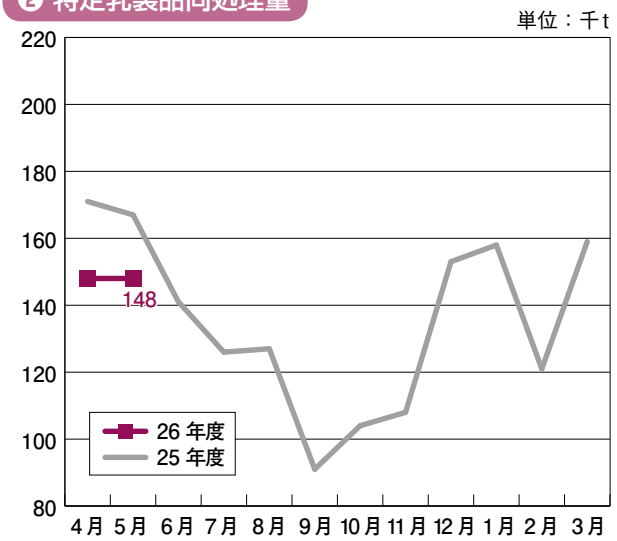
年月	生乳生産量	用途別処理量計		乳製品向		その他乳製品向		
			牛乳等向①		特定乳製品向②		クリーム向③	チーズ向④
2014. 4月	627	622	319	303	148	155	112	43
5月	650	645	342	303	148	155	112	44
6月								
7月								
8月								
9月								
10月								
11月								
12月								
2015. 1月								
2月								
3月								
年度計	1,277	1,267	661	606	296	310	223	87

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

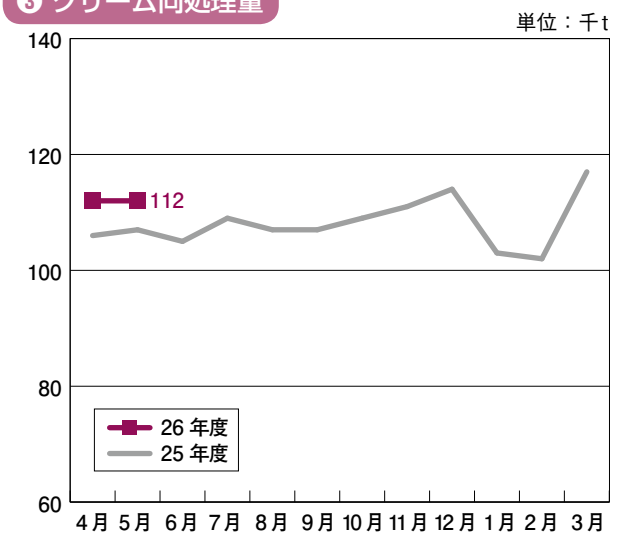
❶ 牛乳等向処理量



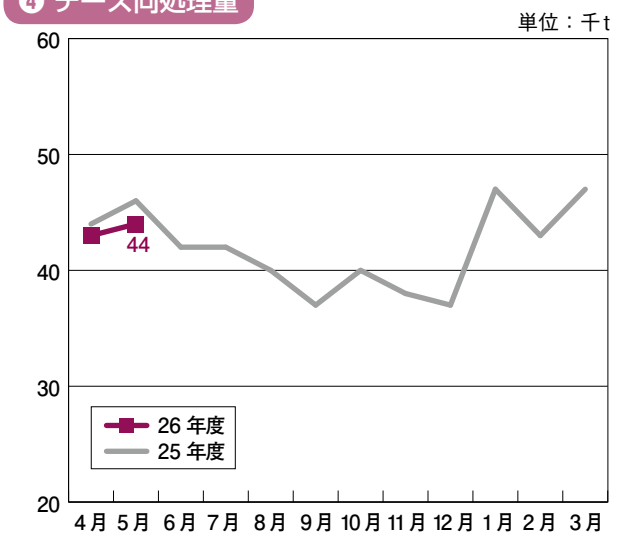
❷ 特定乳製品向処理量



❸ クリーム向処理量



❹ チーズ向処理量



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

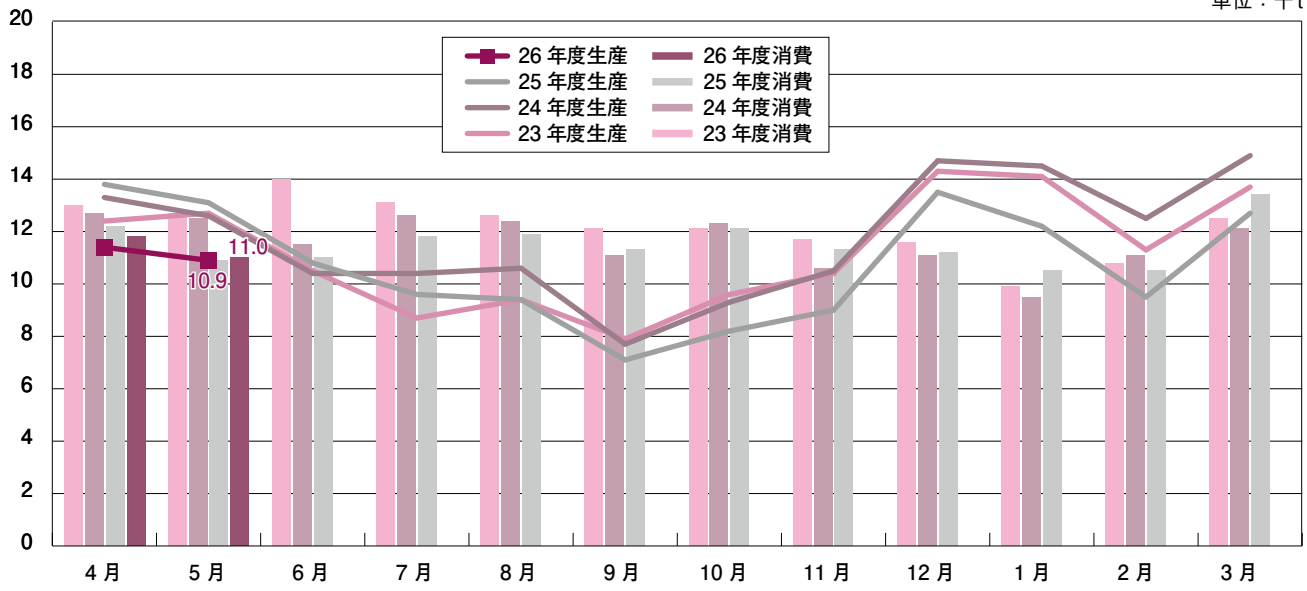
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1	2014. 4月	11.4	11.8	6.3	6.4
5月	13.1	10.9	7.0	5.5	5月	10.9	11.0	5.7	5.0
6月	10.8	11.0	5.7	5.8	6月				
7月	9.6	11.8	5.1	5.8	7月				
8月	9.4	11.9	5.1	5.7	8月				
9月	7.1	11.3	3.6	5.0	9月				
10月	8.2	12.1	3.9	5.5	10月				
11月	9.0	11.3	4.2	6.2	11月				
12月	13.5	11.2	5.5	7.3	12月				
2014. 1月	12.2	10.5	6.5	4.9	2015. 1月				
2月	9.5	10.5	4.8	5.7	2月				
3月	12.7	13.4	6.0	6.9	3月				
年 度 計	128.8	138.0	64.3	70.5	年 度 計	22.3	22.8	12.0	11.4

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

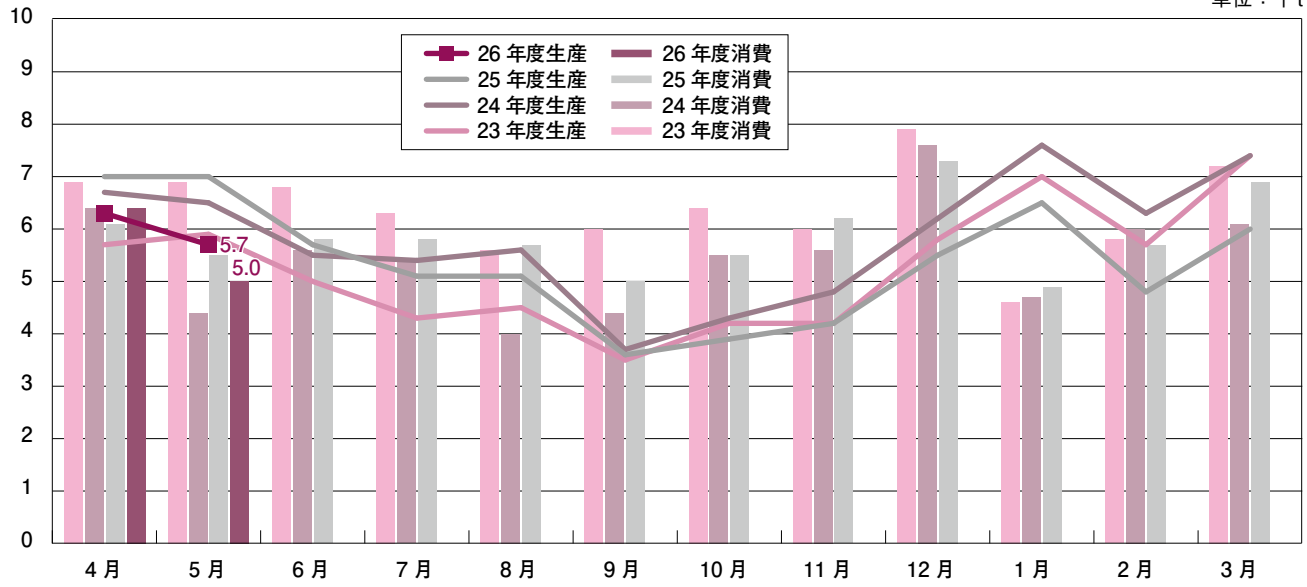
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t

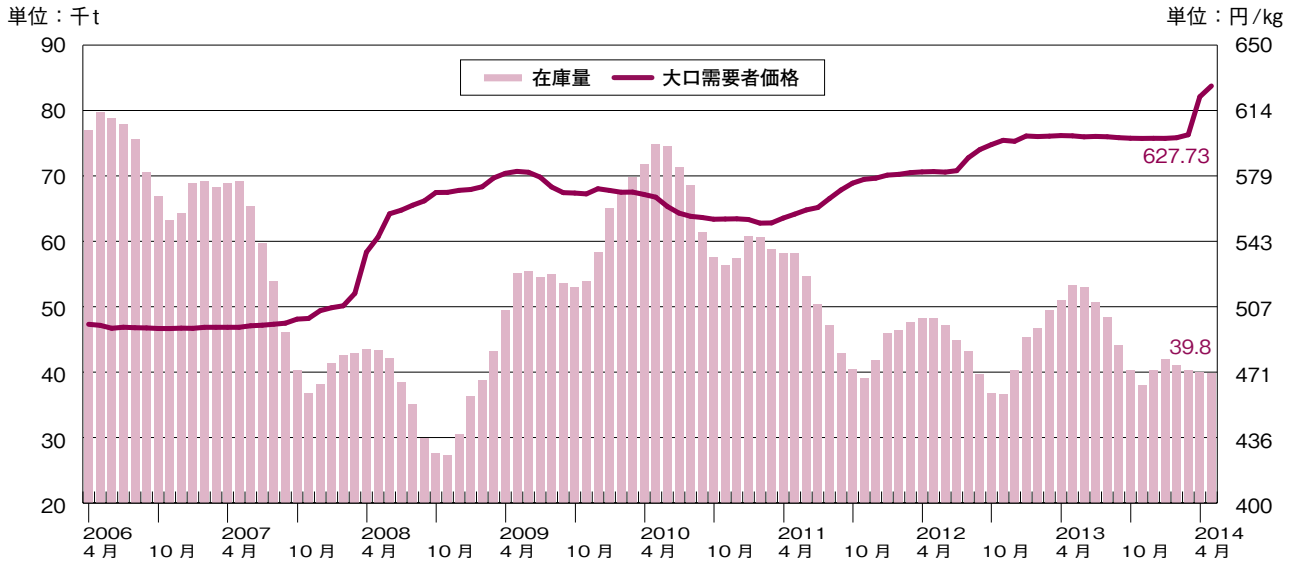


脱脂粉乳・バターの国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

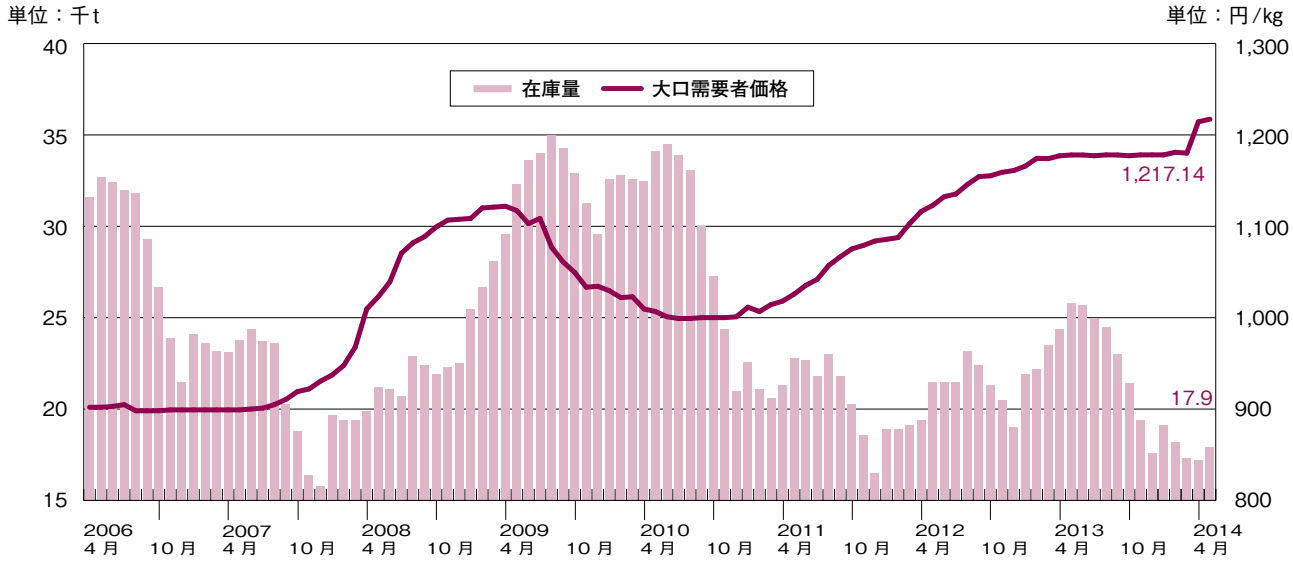
区　分	バター		脱脂粉乳		区　分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2013. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2014. 4月	17.2	1,214	39.9	621.83
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	17.9	1,217	39.8	627.73
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月				
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月				
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月				
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月				
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月				
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月				
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月				
2014. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2015. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				
年 度 計	257.9	13,796.2	526.2	7,097.71	年 度 計	35.1	2,431	79.7	1249.56

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

脱脂粉乳　国内在庫・大口需要者価格推移



バター　国内在庫・大口需要者価格推移



酪政連活動報告

平成26年4月～26年6月

日本酪農政治連盟

4/25	**中央畜産会主催事業説明会（幹事長ほか）** ◆飼料自給力支援事業について
5/8	**TPP対応検討幹事会（幹事長）** ◆今後の対応について協議
5/13	**鹿児島県酪農政治連盟上京要請集会（副委員長、幹事長）** ◆鹿児島県選出国会議員を招聘し要請、意見交換
5/13	**自民党「TPP交渉における国益を守り抜く会」** ◆シンガポール閣僚会合へ向けての意見交換、決議
5/14	**TPP交渉における国会決議の実現と情報開示を求める緊急国民集会** ◆日本の畜産ネットワークの一員として参加 ◆集会終了後デモ行進を実施
5/18～5/21	**TPP閣僚会合<シンガポール>へ渡航（委員長、副委員長、幹事長）** ◆日本の畜産ネットワークの一員として参加 ◆情報収集と要請を行う
5/22	**自民党酪政会総会（委員長、副委員長、幹事長ほか）** ◆日豪EPA、TPPに関する政府説明、団体要請、意見交換
5/22	**酪政連東北ブロック協議会緊急集会** ◆東北選出の国会議員を招聘し、要請、意見交換 ◆東北酪政会の再設立についても要請。賛同を得て、会長に鈴木俊一氏を決定
5/22	**TPP閣僚会合<シンガポール>出張報告会（委員長、幹事長ほか）** ◆日本の畜産ネットワーク主催 ◆報告後、各渡航団体のコメント、質疑応答
5/29	**関東地区酪政連協議会内部監査** ◆平成25年度決算に係る監査
6/2	**TPP政府対策本部主催説明会（幹事長）** ◆TPP閣僚会合<シンガポール>の結果について
6/3	**関東地区酪政連協議会通常総会（幹事長ほか）** ◆平成25年度決算、26年度予算、役員改選等に関する件
6/5	**九州酪農政治連盟協議会通常総会（委員長）** ◆平成25年度決算、26年度予算、役員改選等に関する件
6/10	**自民党畜産振興議員連盟総会（副委員長ほか）** ◆畜産の現状、予算概況に係る説明、団体要請、意見交換
6/13	**第2回酪農対策検討会（拡大常任委員会）** ◆平成27年度酪農政策・予算確保に係る要請内容等について
6/18	**中央団体事務打合せ（幹事長ほか）** ◆平成27年度酪農政策・予算確保に係る要請内容等について
6/19	**軽減税率説明会** ◆軽減税率導入に係る分類例について
6/20	**自民党農林水産戦略調査会他合同会議** ◆配合飼料価格安定制度検討WT取り纏めについて ◆現行の異常補填の上に超異常補填を設け三段階方式とする。最上階の負担割合は国3：メーカー1を考慮中とのこと
6/20	**東京都酪農協通常総会（幹事長）**

北海道 乳牛産地情報

平成26年7月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ↑……強含み ↗……やや強含み →……横這い ↘……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30～34	→	6月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計95.2%、累計94.9%、苫小牧管内月計97.8%、累計97.9%の実績。7月の初妊牛動向は、9月腹が中心で取引される。夏場の導入であることから価格はやや弱含みで推移する見込み。また、生乳生産量の低下により自家保留の傾向が強いと思われ、販売に出回る頭数は若干少なくなると思われる
	初妊牛	50～56	↘	
	経産牛	43～48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	33～40	→	6月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計95.9%、累計95.0%、中標津管内月計96.3%、累計95.1%の実績。7月の初妊牛動向は、9月腹中心。先月の状況から、牛の良し悪しで価格差がはっきりした感があり、ホルス腹(雌雄選別含む)についても、8月分娩からすれば、やや弱含みで推移している。9月腹について、都府県では残暑があること、未だに高値であることなどから購買意欲は弱いものと思われる。
	初妊牛	50～57	→	
	経産牛	48～50	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29～34	→	6月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計98.8%、累計98.7%の実績。7月の初妊牛動向は9～10月腹中心の取引となるが、8月の十勝初妊牛市場が8月末の開催になることから、7月の市場で9月腹が多く出品・販売され、資源が乏しくなる可能性が予想される。10月腹の資源は豊富にある見込み。
	初妊牛	50～58	↘	
	経産牛	45～50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	30～35	→	6月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計96.5%、累計96.8%、北見管内は月計99.0%、累計98.4%の実績。7月の初妊牛の動向は9～10月腹中心の分娩となり、都府県の引合いも弱く、価格も横這いから弱含みで推移する見込み。9月分娩までは自家牧場内に、10月分娩以降は公共牧場に放牧されており、資源は豊富と思われる。道内は生乳生産量の減少が続いており、乳量確保のため即戦力である経産牛需要は依然として高い模様。
	初妊牛	48～55	↘	
	経産牛	40～45	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30～35	→	道内の6月中旬までの生乳生産量前年比は97.2%、累計96.8%の実績。7月の初妊牛動向は、9月分娩中心。例年であれば9月分娩は導入意欲も少なく、価格的にも下がる傾向にあるが、道内において生乳生産量が減少しているため、地元の導入(新規就農者の導入)や内地メガファームの導入如何によっては相場も大きく変動するものと思われる。9月分娩は資源的には豊富にあり価格は弱含み傾向。
	初妊牛	50～57	↘	
	経産牛	45～50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

いっぱい食べてね

今月の表紙は、「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」(第42回全国発表大会にて開催)で応募いただいた「いっぱい食べてね」(岡山県 水島 一哉氏 撮影)です。力仕事ながら、立派にお手伝いをしています。将来が楽しみな1枚です。

編集後記

▼全国で父乳活動にご協力いただきました皆様、こどもギャラリーに応募いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

平成26年7月10日発行(毎月1回10日発行)
ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION
全酪連会報 7月号 No.586

●編集・発行人 中島 裕志郎
●発行 全国酪農業協同組合連合会
〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
TEL 03-5931-8003
http://www.zenrakuren.or.jp/

牧場の牛
馬場川小学校（北海道）6年　横山 恵也

今月の らくのうこども ギャラリー 入賞作品紹介

今月の入賞作品は、馬場川小学校（北海道）6年の横山恵也さんの作品です。作品としての完成度が高く、牛さんの存在感がリアルに伝わって来ます。絵筆を巧く使って鼻筋、耳の内側、胴体、前足と、毛並みを描き分けています。瞳や舌、鼻先、角などの微妙な色の変化を鋭い観察力で捉えて塗り方を工夫して丁寧に表現しています。特選に相応しい素晴らしい作品だと思います。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第41回らくのうこどもギャラリー」で全国476点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催　全国酪農青年女性会議